マニュアルの使いかた

安心してお使いいただくために

- パソコンをお取り扱いいただくための注意事項
  ご使用前に必ずお読みください。

librettoガイド

- パソコンの準備
- Windowsのセットアップ
- 電源の切りかた
- Q&A集
- リカバリー（再セットアップ）
- 電源の入れかた
- 各部の名前
- バッテリーパックの交換
- システム環境の変更とは
- 廃棄／譲渡

など

オンラインマニュアル（本書）

Windowsが起動しているときにパソコンの画面上で見るマニュアルです。

- パソコンを買い替えたとき
- パソコンの基本操作
- ネットワーク機能
- 周辺機器の接続
- バッテリーで使う方法
- システム環境の変更

など

リリース情報

- 本製品を使用するうえでの注意事項など
  必ずお読みください。

参照 「はじめに- 7 リリース情報について」

もくじ

マニュアルの使いかた 1
もくじ. 2
はじめに 5

1章 使いはじめる前に.. 11

1 リカバリーメディアを作る 12

2 バックアップをとる 16
- 1 バックアップが必要なデータ 17
- 2 おすすめするバックアップ運用. 18
- 3 データのバックアップをとる 18
- 4 フォルダーを同期させて自動的にバックアップをとる 20

3 前のパソコンのデータを移行する －PC引越ナビ－ 21

2章 パソコンの基本操作を覚えよう...................... 25

1 電源を入れるとき 26

2 使い終わったら 28
- 1 電源を切る 29
- 2 スリープ. 30
- 3 休止状態. 35
- 4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する 36

3 「TOSHIBA Flash Cards」について 38

4 ハードディスクドライブ 41

5 画面を見やすく調整する －ディスプレイ－ 42
- 1 画面の明るさを調整する 42

6 サウンド 44

1 スピーカーの音量を調整する 44

7 microSDメモリカードを使う
－microSDカードスロット－ 46

1 microSDメモリカードを使う前に 46
2 カードのセットと取り出し 47

8 Webカメラを使う 51

1 Webカメラのアプリケーションについて 51
2 顔照合機能 53

3章 ネットワークの世界へ 55

1 ネットワークで広がる世界 56

1 LAN接続はこんなに便利 56
2 ワイヤレス（無線）LANを使う 57

2 Bluetooth機能 61

3 WiMAX通信機能 63

1 WiMAXサービスについて 63
2 接続の準備 63
3 WiMAXサービスを申し込む 66
4 困ったときは 69
5 お問い合わせ先 70

4章 周辺機器を使って機能を広げよう 71

1 周辺機器を使う前に 72

2 USB対応機器を使う 73

3 ヘッドホンを使う 75

1 ヘッドホンを使う 75

5章 バッテリー駆動で使う 77

1 バッテリーについて 78

1 バッテリー充電量を確認する 78

2 バッテリーを充電する 80

2 省電力の設定をする 83

1 電源オプション 83

6章 システム環境の変更 85

1 東芝HWセットアップ 86

2 パスワードセキュリティ 87

1 ユーザーパスワードの設定 88

2 ユーザーパスワードの入力 89

3 パソコンの動作状況を監視し、記録する －東芝PCヘルスモニター 90

1 起動について 91

付録 93

1 ご使用にあたってのお願い 94

2 記録メディアについて 100

1 microSDメモリカードを使う前に 100

2 記録メディアの廃棄・譲渡について 101

3 お客様登録の手続き 102

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ 102

4 技術基準適合について 104

5 各インターフェースの仕様 105

6 無線LANについて 106

7 Bluetoothについて 114

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、付属の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。
必ずお読みになり、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。
本書は、次の決まりに従って書かれています。

1 記号の意味

記号	意味
⚠危 険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
⚠警 告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（＊1）を負うことが想定されること”を示します。
⚠注 意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（＊2）を負うことが想定されるか、または物的損害（＊3）の発生が想定されること”を示します。
お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
メモ	知っていると便利な内容を示します。
役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
参照	このマニュアルやほかのマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「　」 ほかのマニュアルやヘルプへの参照の場合…『　』、《　》

＊1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
＊2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
＊3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

2 用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

WindowsまたはWindows 7

特に説明がない場合は、Windows® 7 Home Premiumを示します。

ハードディスク

特に説明がない場合は、HDD（ハードディスクドライブ）とSSD（ソリッドステートドライブ）をまとめて「ハードディスク」と呼びます。

無線LANモデル

無線LAN機能を搭載しているモデルを示します。

Bluetoothモデル

Bluetooth機能を搭載しているモデルを示します。

WiMAXモデル

WiMAX機能を搭載しているモデルを示します。

東芝ecoユーティリティ搭載モデル

東芝ecoユーティリティをインストールしているモデルを示します。

ご購入のモデルの仕様については、『libretto ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

3 記載について

- 記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「＊＊＊＊モデルの場合」や「＊＊＊＊シリーズのみ」などのように注記します。
- インターネット接続については、ブロードバンド接続を前提に説明しています。
- アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは内蔵ハードディスクからインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- 本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。
- システムがWindows 7以外のモデルの場合、一部の使用方法や設定方法が異なる場合があります。詳しくは、『セットアップガイド』や各ヘルプを確認してください。
- 本書では、コントロールパネルの操作方法について表示方法を「カテゴリ」に設定していることを前提に説明しています。表示方法を「カテゴリ」に切り替えてから操作説明を確認してください。
- 本書は、語尾をのばすカタカナ語の表記において、語尾に長音（ー）を適用しています。画面の表示と異なる場合がありますが、読み換えてご使用ください。

4 Trademarks

- Microsoft、Windows、Windows Media、Windows Live、Aero、MSN、SkyDriveは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- Intel、インテル、インテル Core、Celeronは、アメリカ合衆国およびその他の国におけるIntel Corporationまたはその子会社の商標、または登録商標です。
- microSDロゴは商標です。（ ）
- microSDHCロゴは商標です。（ ）
- Fast Ethernet、Ethernetは富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- ConfigFreeは、株式会社東芝の登録商標です。
- TRENDMICRO、ウイルスバスターはトレンドマイクロ株式会社の登録商標です。
- Google ツールバーはGoogle Inc.の登録商標です。
- 「PC引越ナビ」は、東芝パソコンシステム株式会社の商標です。
- Bluetoothは、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- WiMAXはWiMAX Forumの商標です。

本書に掲載の商品の名称やロゴは、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

5 プロセッサ（CPU）に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ（CPU）の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ACアダプターを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- 本製品を通常の電話回線、もしくは低速度のネットワークに接続して使用する場合
- 複雑な造形に使用するソフト（たとえば、運用に高性能コンピューターが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト）を本製品上で使用する場合
- 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
  目安として、標高1,000メートル（3,280フィート）以上をお考えください。
- 目安として、気温5～30℃（高所の場合25℃）の範囲を超えるような外気温の状態で本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPUの処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。
また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。
これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。
なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を発揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

■64ビットプロセッサに関する注意

64ビット対応プロセッサは、64ビットまたは32ビットで動作するように最適化されています。64ビット対応プロセッサは以下の条件をすべて満たす場合に64ビットで動作します。

- 64ビット対応のOS（オペレーティングシステム）がインストールされている
- 64ビット対応のCPU/チップセットが搭載されている
- 64ビット対応のBIOSが搭載されている
- 64ビット対応のデバイスドライバーがインストールされている
- 64ビット対応のアプリケーションがインストールされている

特定のデバイスドライバーおよびアプリケーションは64ビットプロセッサ上で正常に動作しない場合があります。
プレインストールされているOSが、64ビット対応と明示されていない場合、32ビット対応のOSがプレインストールされています。

このほかの使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝PCあんしんサポートにお問い合わせください。

6 著作権について

音楽、映像、コンピューター・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

7 リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

① ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［はじめに］→［リリース情報］をタップする

8 お願い

- 本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- Windows標準のシステムツールまたは『librettoガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- 内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。

- 購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。有料にてパスワードを解除します。この場合、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- 本製品はセキュリティ対策のためのパスワードの設定や、無線LANの暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。
  セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、当社はいっさいの責任を負いません。
- 「ウイルスバスター」を使用している場合、ウイルス定義ファイルおよびファイアウォール規則などは、新種のウイルスやワーム、スパイウェア、クラッキングなどからコンピューターを保護するためにも、常に最新のものにアップデートする必要があります。最新版へのアップデートは、ご使用開始から90日間に限り無料で行うことができます。90日を経過するとウイルスチェック機能を含めて、すべての機能がご使用できなくなります。
  ウイルスチェックが全く行われない状態となりますので、必ず期限切れ前に有料の正規サービスへ登録するか、市販のウイルスチェック／セキュリティ対策ソフトを導入してください。
- ご使用の際は必ず本書をはじめとする各種説明書と『エンドユーザー使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- アプリケーション起動時に使用許諾書が表示された場合は、内容を確認し、同意してください。使用許諾書に同意しないと、アプリケーションを使用することはできません。一部のアプリケーションでは、一度使用許諾書に同意すると、以降起動時に使用許諾書が表示されなくなります。リカバリーを行った場合には再び使用許諾書が表示されます。
- 『東芝保証書』は、記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザー登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。当社ホームページで登録できます。

参照 詳細について「付録 3 お客様登録の手続き」

9 ［ユーザーアカウント制御］画面について

操作の途中で［ユーザーアカウント制御］画面が表示された場合は、そのメッセージを注意して読み、開始した操作の内容を確認してから、画面の指示に従って操作してください。
パスワードの入力を求められた場合は、管理者アカウントのパスワードで認証を行ってください。

1章

使いはじめる前に

トラブル発生時に備えて、リカバリーメディアの作りかたやデータのバックアップのとりかたについて説明します。また、前のパソコンで使っていたデータを移行する便利なソフト「PC引越ナビ」について説明します。

1　リカバリーメディアを作る 12

2　バックアップをとる 16

3　前のパソコンのデータを移行する
　　－PC引越ナビ－ 21

1 リカバリーメディアを作る

パソコンにトラブルが生じたときに、パソコンを再セットアップし購入時の状態に復元することを「リカバリー」といいます。

参照 リカバリーについて『librettoガイド』

「リカバリー」をするためのツール（リカバリーツール）はパソコン本体のハードディスクドライブに用意されています。
しかし、トラブル発生時に、トラブルの原因によっては、肝心のリカバリーツールをハードディスクドライブから起動できないおそれもあります。このような場合に備えて、あらかじめリカバリーツールを、ハードディスクドライブ以外の記録メディアにコピーしておくこと（リカバリーメディアの作成）をおすすめします。

リカバリーメディアの作成は、「TOSHIBA Recovery Media Creator（トウシバ リカバリー メディア クリエイター）」で行います。

リカバリーメディアに使用できる記録メディア

「TOSHIBA Recovery Media Creator」で使用できる記録メディアは次のものです。あらかじめ、何もデータが書き込まれていないものを用意してください。

- USBフラッシュメモリ
- 記録用のDVDメディア*1（DVD-R、DVD-R DL、DVD-RW、DVD+R、DVD+R DL、DVD+RW）

＊1 外付けのDVDドライブ（東芝製オプション）を接続すると、DVDを使用できます。

必要なDVDの枚数やUSBフラッシュメモリの容量は、「TOSHIBA Recovery Media Creator」の画面に表示されます。
USBフラッシュメモリは、必要な容量より大きい容量のものを用意してください。
DVDが複数枚必要な場合は、同じ規格のメディアで統一してください。

お願い DVDについて／DVDの使用推奨メーカー

- 外付けのDVDドライブで使用できるDVDについては、『DVDドライブに付属の取扱説明書』を確認してください。

お願い リカバリーメディアの作成にあたって

- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」ではDVD-RAMおよびブルーレイディスクを使用できません。
- 「TOSHIBA Recovery Media Creator」を使ってリカバリーメディアを作成するときは、ほかのアプリケーションソフトをすべて終了させてから、行ってください。
- あらかじめ、USBフラッシュメモリ使用上のご注意やDVD使用上の注意事項を確認してください。

1 インストール方法

「TOSHIBA Recovery Media Creator」は、購入時の状態ではインストールされていません。次の手順でインストールしてください。

メモ

- アプリケーションをインストールする場合は、必ず横置きで行ってください。縦置きでは、インストールできない場合があります。

1 [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [アプリケーションの再インストール] をタップする

2 [セットアップ画面へ] をタップする

3 [ユーティリティ] タブをタップする

4 画面左側の [TOSHIBA Recovery Media Creator] をタップし、[「TOSHIBA Recovery Media Creator」のセットアップ] をタップする

5 画面の指示に従ってインストールする

[ファイルのダウンロード] 画面が表示された場合は、[実行] ボタンをタップしてください。

2 リカバリーメディアを作成する

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［リカバリーメディア作成ツール］をタップする**

「TOSHIBA Recovery Media Creator」が起動します。

2 **［タイトル］、［メディア構成］を選択する**

［情報］に、必要なDVDの枚数やUSBフラッシュメモリの容量が表示されるので、用意してください。

（表示例）

3 **［作成］ボタンをタップする**

作成するメディアの確認と、メディアのセットを求める画面が表示されます。

4 **USBフラッシュメモリまたはDVDをセットする**

参照 USBフラッシュメモリのセット「4章 2 USB対応機器を使う」
DVDのセット『DVDドライブに付属の取扱説明書』

5 ［OK］ボタンをタップする

作成が開始され、［現在のメディア］に、作成しているメディアの進捗状況が表示されます。作成を途中で中止する場合は、［キャンセル］ボタンをタップしてください。

DVDの場合、作成が終了すると、自動的にディスクトレイが開きます。作成するメディアが複数枚ある場合は、メッセージに従ってメディアを入れ替えてください。

6 メッセージを確認し、［OK］ボタンをタップする

作成したリカバリーメディアには、次のことがわかるように目印をつけてください。

- 「リカバリーメディア」であること
- 複数枚ある場合は、番号

たとえばDVDの場合、「リカバリーメディアXX（番号）」というように、レーベル面に油性のフェルトペンなどで記載してください。リカバリーをするとき、この番号の順にメディアを使用しないと、正しくリカバリーされません。必ずメディア番号がわかるようにして保管してください。

7 ［閉じる］ボタン（ ）をタップする

［TOSHIBA Recovery Media Creator］画面が閉じ、メディアの作成を終了します。

リカバリーメディアからリカバリーをする操作手順については、『librettoガイド』を参照してください。

2 バックアップをとる

保存したファイルやフォルダーを誤って削除してしまったり、パソコンのトラブルなどによってファイルが使えなくなってしまうことがあります。
このような場合に備えて、あらかじめファイルをUSBフラッシュメモリなど、ハードディスクドライブ以外の記録メディアにコピーしておくことをバックアップといいます。

大切なデータは、こまめにバックアップをとってください。

「東芝ファイル同期ユーティリティ」を搭載しているモデルの場合、2つのフォルダーを同期させて自動的にバックアップをとることもできます。

お願い バックアップをとるにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 2 バックアップについて」を確認してください。

役立つ操作集

Windowsのバックアップ機能

Windowsのバックアップ機能を使ってバックアップをとることもできます。
[スタート] ボタン ( ) → [コントロールパネル] をタップして、表示された画面で [バックアップの作成] をタップしてください。

参照 詳細について『Windows ヘルプとサポート』

1 バックアップが必要なデータ

バックアップをとることを推奨するデータには、次のようなものがあります。

- リカバリー（再セットアップ）ツール
- 自分で作成したデータ（文書、画像、映像、音楽など）
- 送受信したメール
- メールのアドレス帳
- インターネットの［お気に入り］

■ATOKで登録した単語について

日本語入力システムATOKの「単語登録」で登録したユーザー辞書データをバックアップすることができます。
詳しくは「ATOK」のヘルプを確認してください。

- **ヘルプの起動方法**
  ①ATOKパレットの［ヘルプ］ボタン（?）をタップし、表示されたメニューから［ATOKのヘルプ］をタップする

■インターネット接続の設定情報について

インターネット接続の設定情報は、データのバックアップがとれません。
設定情報はプロバイダーから送られてきた書類に記載されています。書類を大切に保管し、設定に必要な情報を忘れないようにしてください。
書類が手元にない場合は、次のインターネットの設定を控えてください。

- ユーザーID
- パスワード
- 電子メールアドレス
- メールパスワード
- プライマリDNS サーバー
- セカンダリDNS サーバー
- インターネットメールサーバー
- ニュースサーバー
- アクセスポイントの電話番号

など

ファイルやフォルダーの保存場所

データのファイルやフォルダーは次の場所に保存されています。
これらのファイルやフォルダーは、そのままバックアップ用の記録メディアにコピーすることができます。

自分で作成したファイルやフォルダー	保存時に指定した場所に保存されています。わかりやすい場所に保存しておいてください。保存先を忘れた場合は、［スタート］ボタン（ ）をタップし、［プログラムとファイルの検索］で探すことができます。
［マイ ドキュメント］、［お気に入り］、［デスクトップ］など	［コンピューター］-ハードディスクドライブ（C:）-［ユーザー］内の各ユーザー名のフォルダーに保存されています。

複数のユーザーで使っている場合は、それぞれのユーザー名でログオンし、データのバックアップをとってください。
記録メディアに保存したデータのバックアップをとる場合は、いったんハードディスクドライブに保存してから、バックアップ用の記録メディアにコピーすることをおすすめします。

2 おすすめするバックアップ運用

次の方法でバックアップをとることをおすすめします。

■定期的にバックアップをとる

ハードディスクドライブ（C:）以外のハードディスクドライブに保存されているデータも、ハードディスクドライブの故障などの原因で、使えなくなってしまうことがあります。
ハードディスクドライブ（C:）以外のハードディスクドライブに保存されているデータも、定期的に記録メディアにバックアップをとってください。

3 データのバックアップをとる

ここでは、一般的な、ファイルをコピーしてバックアップをとる方法について説明します。
トラブル発生時などのWindowsが起動しない状態でも、データのバックアップをとることができます。

参照 ファイルレスキューについて『librettoガイド』

1 バックアップ用に使用できる記録メディア

バックアップ用に使用できる記録メディアは次のようなものがあります。

- USBフラッシュメモリやmicroSDメモリカードなどの記録メディア

お使いのモデルによって、使用できる記録メディアが異なります。
また、ファイルやフォルダーの容量に合わせて、使用する記録メディアを選び、あらかじめ用意してください。

2 バックアップ方法

USBフラッシュメモリやmicroSDメモリカードなどに、フォルダーやファイルをコピーすることができます。

1 記録メディアをセットする

参照 USBフラッシュメモリのセット「4章 2 USB対応機器を使う」
microSDメモリカードのセット「2章 7 - 2 カードのセットと取り出し」

2 データが保存してあるフォルダーをプレス アンド ホールドし、表示されたメニューから［送る］→手順 1 の記録メディアをタップする

（表示例）

バックアップのデータを戻すには

バックアップをとった［マイ ドキュメント］、［お気に入り］、［デスクトップ］などのデータをハードディスクドライブに戻す方法を説明します。

①［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をタップする
②ハードディスクドライブ（C:）をダブルタップする
③［ユーザー］フォルダーをダブルタップする
④バックアップしたデータを利用する、ユーザーのフォルダーをダブルタップする
⑤バックアップをとった記録メディアをセットする
⑥手順⑤でセットした記録メディア内に保存されている［マイ ドキュメント］、［お気に入り］、［デスクトップ］フォルダーなどを、ユーザーのフォルダー内にコピーする
メッセージが表示されたら、確認してボタンをタップしてください。
それぞれのフォルダーが上書きされます。

4 フォルダーを同期させて自動的にバックアップをとる

＊東芝ファイル同期ユーティリティを搭載しているモデルのみ

「東芝ファイル同期ユーティリティ」を使って、2つのフォルダーの中身を同期させるように設定することができます。たとえば、Aフォルダーと Bフォルダーを同期させた場合、Aフォルダー内のファイルを更新（追加／削除／更新など）すると、自動的にBフォルダー内のファイルも同様に更新されます。つまり、Bフォルダーは、Aフォルダーの中身を自動的にバックアップしていることになります。

1 起動方法

1 **[スタート] ボタン ( ) → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [ファイル同期ユーティリティ] をタップする**

「東芝ファイル同期ユーティリティ」が起動します。

設定方法の詳細は、ヘルプを参照してください。

2 ヘルプの起動方法

1 **[東芝ファイル同期ユーティリティ] 画面のタイトルバーをプレス アンド ホールドし、表示されるメニューから [ヘルプ] をタップする**

3 前のパソコンのデータを移行する
－PC引越ナビ－

＊PC引越ナビ搭載モデルのみ

パソコンを買い替えたときは、それまでに使用していたパソコンと同じ環境にするために、設定やデータの移行といった準備が必要です。
「PC引越ナビ」は、データや設定を一つにまとめ、新しいパソコンへの移行の手間を簡略化することができるアプリケーションです。事前に次の点を確認しておくと、よりスムーズに操作ができます。
ここでは、移行したい設定やデータが保存されているパソコンを「前のパソコン」、設定やデータを移行したいパソコンを「本製品」として説明します。

パソコンの仕様を確認する

■前のパソコンの動作環境を確認する

「PC引越ナビ」は、次のシステムに対応しています。

- **システム**＊1
  Windows XP／Windows Vista／Windows 7

  ＊1 マイクロソフト社が提供している最新のService Packを適用してください。また、「Internet Explorer」のバージョンが「6 SP1」以上であることを確認してください。それ以下のバージョンの場合は、「6 SP1」を適用してください。

  システムの正式名称は次のとおりです。

  Windows XP .... Microsoft® Windows® XP operating system 日本語版の全エディション
  Windows Vista .... Microsoft® Windows Vista® の全エディション
  Windows 7 .... Microsoft® Windows® 7の全エディション

お願い 前のパソコンの動作環境について

- あらかじめ、「付録 1 - 3 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

■使用できる環境を確認する

設定・データの移行をするには、USBフラッシュメモリを使用する方法があります。
前のパソコンと、本製品の仕様を確認し、共通して使用できる方法のなかから、移行する設定・データの容量に適した方法を選んでください。

USBフラッシュメモリのみで移行する場合は、512MB以上の容量が必要です。
USBフラッシュメモリの代わりに、microSDメモリカードを使用することもできます。

本製品で使用できるmicroSDメモリカードの種類については、「2章 7 microSDメモリカードを使う」で確認してください。

前のパソコンでどの方法が使用できるかを確認し、USBフラッシュメモリが必要な場合は購入してください。また、フォーマットが必要なUSBフラッシュメモリは、あらかじめフォーマットしてください。
移行するファイルや設定内容に比べて、USBフラッシュメモリの容量が小さいと、数回に分けてデータをコピーすることになりますので、大容量のUSBフラッシュメモリを移行用に使用することをおすすめします。

移行できる設定とデータ

「PC引越ナビ」を起動したときの、ユーザーの設定を移行できます。

- **Internet Explorerの設定**＊1
- **Windows Live メール（Windows メール、Outlook Express）の設定**＊2＊4
- **Microsoft Outlookの設定**＊3＊4
- **［ドキュメント］（または［マイドキュメント］）フォルダーに保存されているファイル**
- **デスクトップ上のファイル**
- **任意のフォルダーに含まれるファイル**

＊1 Microsoft Internet Explorer 6 SP1以上
＊2 移行できるデータは、「Microsoft Outlook Express（バージョンが6.0 SP1以上）」、「Windows メール」、「Windows Live メール」のものになります。
＊3 移行できるデータは、「Microsoft Outlook 2000」以降のものになります。
本製品には、Office搭載モデルにのみ、「Microsoft Outlook」が付属およびインストールされています。
Officeが搭載されていないモデルの場合、以前にご使用されていたパソコンに保存されている「Microsoft Outlook」のデータを本製品に移行したいときは、「PC引越ナビ」をご使用の前に、市販の「Microsoft Outlook」を本製品にインストールする必要があります。
移行するためには、「Microsoft Outlook 2003」以降の「Microsoft Outlook」をインストールしてください。
＊4 本製品にメールソフトがインストールされていない場合でも、「PC引越ナビ」はパソコンにデータを保存します。
「Windows Live メール」および「Microsoft Outlook」は起動したときに、保存したデータのインポート（取り込み）を行います。
メールソフトによっては、違うソフトのデータを変換して取り込むことができます。
詳しくは、メールソフトのヘルプを確認してください。

メモ

- 移行できる設定やデータの詳細は、「PC引越ナビ」のヘルプで確認してください。

お願い **前のパソコンの動作環境について**

- あらかじめ、「付録 1 - 3 「PC引越ナビ」について」を確認してください。

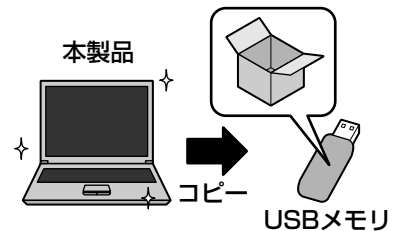
1 操作の流れ

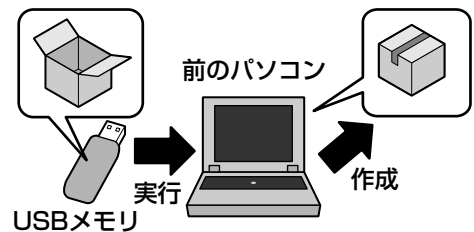
設定とデータの移行は、画面の指示に従って行います。移行する設定・データや使用する移行方法などで詳細の操作は異なりますが、大まかな流れは次のとおりです。
本製品と、前のパソコンとで交互に作業を行いますので、近くに設置して行うとよいでしょう。

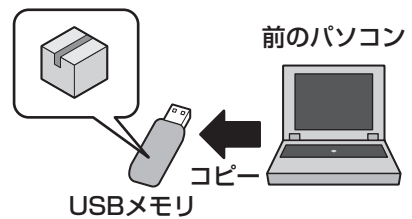
移行方法を決める

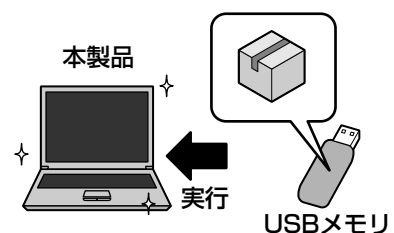
いくつかある移行方法のなかから、前のパソコンと本製品の仕様や、移行するデータの容量を元に移行方法を選択します。

「こん包プログラム」をコピーする

「こん包プログラム」は複数のファイルを1つにまとめるプログラムです。
USBフラッシュメモリにコピーしてください。

「こん包プログラム」を実行する

コピーした「こん包プログラム」を実行し、移行する複数のデータを1つのファイル(「こん包ファイル」)にまとめます。

「こん包ファイル」をコピーする

作成した「こん包ファイル」をコピーします。移行するデータの容量によっては、「こん包ファイル」は複数作成されます。すべての「こん包ファイル」をコピーしてください。

「こん包ファイル」を開こんする

コピーした「こん包ファイル」を本製品で開き、コピーします。

2 起動方法

1 デスクトップ上の［PC引越ナビ］（ ）をダブルタップする

「PC引越ナビ」が起動します。
［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［PC引越ナビ］をタップして起動することもできます。

2 画面下の ヘルプ ボタンをタップし、注意制限事項を確認する

「PC引越ナビ」のヘルプが表示されます。
「PC引越ナビ」の注意制限事項をお読みください。
目次で［注意制限事項とメッセージ］をタップし、画面右側に表示される各項目をよくお読みください。

3 ［同意する］をチェックし、［次へ］ボタンをタップする

使用許諾契約に同意しないと、「PC引越ナビ」を使用することはできません。
注意事項が表示されます。内容を確認し、［次へ］ボタンをタップしてください。

引き続き、説明画面が表示されますので、内容を確認しながら、操作してください。

2章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、基本の使いかたなどを説明しています。

1　電源を入れるとき 26
2　使い終わったら 28
3　「TOSHIBA Flash Cards」について 38
4　ハードディスクドライブ 41
5　画面を見やすく調整する －ディスプレイ－ 42
6　サウンド 44
7　microSDメモリカードを使う
　　－microSDカードスロット－ 46
8　Webカメラを使う 51

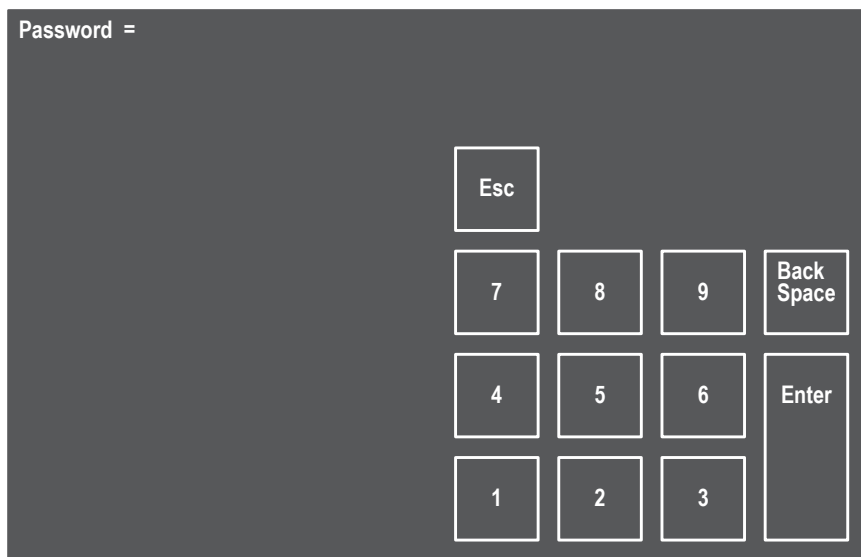
1 電源を入れるとき

1 メッセージが表示された場合

電源を入れたときにメッセージが表示された場合は、次の内容を確認してください。

■パスワードを設定している場合

● **ユーザーパスワードを設定している場合**

電源を入れると次の画面が表示されます。

画面上のキーボードを使用して、設定したユーザーパスワードを入力し、ENTERキーをタップしてください。

参照 パスワードについて「6章 2 パスワードセキュリティ」

メモ

- ユーザーパスワードは数字のみ入力できます。カーソルの左側の文字を削除するときはBackSpaceキーを、入力した文字をすべて削除するときはEscキーを押してください。
- パスワードの入力ミスを３回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。

■メッセージが表示される場合

不明なメッセージについては、『セットアップガイド』の「Q&A集」をご覧ください。

2 起動するドライブを変更する場合

ご購入時の設定では、標準ハードディスクドライブからシステムを起動します。起動するドライブを変更したい場合、次の方法で変更できます。

■一時的に変更する

電源を入れたときに表示されるメニューから、起動するドライブを選択できます。

1 電源スイッチを押し、製品ロゴ画面が表示されている間にキーボードボタンを数回押す

各種パスワードを設定している場合は、パスワードの入力をうながす画面が表示されます。

画面上のキーボードでパスワードを入力して、 *ENTER* キーをタップしてください。

参照 「本節 1 メッセージが表示された場合」

2 キーボードボタンで起動したいドライブを選択し、ホームボタンを押す

キーボードボタンを押すたびに、選択している項目が変わります。

一時的にそのドライブが起動最優先ドライブとなり、起動します。

■あらかじめ設定しておく

「東芝HWセットアップ」の［OSの起動］タブで起動ドライブの優先順位を変更できます。

参照 設定の変更「東芝HWセットアップ」のヘルプ

2 使い終わったら

パソコンを使い終わったとき、電源を完全に切る「シャットダウン」を行ってください。中断するときは、それまでの作業をメモリに保存して一時的に中断する「スリープ」があります。

⚠警告

- **電子機器の使用が制限されている場所ではパソコンの電源を切る**
  パソコン本体を航空機や電子機器の使用が制限されている場所（病院など）に持ち込む場合は、無線機能を無効に設定した上で、パソコンの電源を切ってください。他の機器に影響を与えることがあります。
  ・無線機能は、「TOSHIBA Flash Cards」の［ワイヤレス］のカードで無効にすることができます。［ワイヤレス］のカードをタップして表示されたアイコン群から をタップし、無線機能をOFFに設定して、ワイヤレスコミュニケーションLEDが消灯しているのを確認してください。
  ・スリープや休止状態では、パソコンが自動的に動作することがあるため、飛行を妨げたり、他のシステムに影響を及ぼしたりすることがあります。
  ・電源を切った状態でもパソコンが自動的に動作するような設定のソフトウェアの場合は、あらかじめ設定を無効に（解除）してください。

お願い 操作にあたって

中断する前に

- スリープまたは休止状態を実行する前にデータを保存することを推奨します。
- スリープまたは休止状態を実行するときは、メディアへの書き込みが完全に終了していることを確認してください。
  書き込み途中のデータがある状態でスリープまたは休止状態を実行したとき、データが正しく書き込まれないことがあります。メディアを取り出しできる状態になっていれば書き込みは終了しています。

中断したときは

- スリープ中に以下のことを行わないでください。次回電源を入れたときに、システムが起動しないことがあります。
  ・スリープ中にバッテリーをはずすこと
  また、スリープ中にバッテリー残量が減少した場合も同様に、次回起動時にシステムが起動しないことがあります。
  システムが起動しない場合は、電源スイッチを５秒間押していったん電源を切ったあと、再度電源を入れてください。この場合、スリープ前の状態は保持できていません（Windowsエラー回復処理で起動します）。
- スリープ中や休止状態では、バッテリーの取り付け／取りはずしは行わないでください。保存されていないデータは消失します。また、感電、故障のおそれがあります。
- スリープまたは休止状態を利用しないときは、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。保存されていないデータは消失します。

1 電源を切る

パソコンを使わないときは、スリープではなく電源を切ってください。
間違った操作を行うと、故障したり大切なデータを失うおそれがあります。

お願い 電源を切る前に

- 必要なデータは必ず保存してください。保存されていないデータは消失します。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- データの書き込み中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

電源を切るには、次のように操作してください。

1 ［スタート］ボタンをタップする

2 ［シャットダウン］をタップする

Windowsを終了したあと、パソコンの電源が自動的に切れます。
パソコン本体の電源が切れると、Power LEDが消灯します。

お願い 電源を切ったあとは

- パソコン本体に接続している機器（周辺機器）の電源は、パソコン本体の電源を切ったあとに切ってください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。
- パソコン本体や周辺機器の電源は、切ったあとすぐに入れないでください。故障の原因となります。

■再起動

Windowsを終了したあと、すぐにもう1度起動することを「再起動」といいます。パソコンの設定を変えたときやパソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。
再起動するには、次のように操作してください。

①［スタート］ボタン（ ）をタップし、 をタップする
②表示されたメニューから［再起動］をタップする

2 スリープ

パソコンの使用を中断する場合は、パソコンを「スリープ」にしましょう。
スリープ機能は、次に電源スイッチを押したときに素早く中断したときの状態を再現することができます。スリープ中はバッテリーを消耗しますので、ACアダプターを取り付けておくことを推奨します。
スリープには、通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能もあります。
作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。この場合、ハイブリッド スリープを有効にしておくと、データは保持されます。

参照 ハイブリッド スリープ「本項 2 スリープ機能を強化する」

なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（バッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、スリープではなく、必ず電源を切ってください。

メモ

- 「TOSHIBA Flash Cards」を使って、スリープを実行することもできます。

参照 TOSHIBA Flash Cards「本章 3「TOSHIBA Flash Cards」について」

1 スリープの実行方法

1 ［スタート］ボタンをタップする

2 ボタンをタップし①、表示されたメニューから［スリープ］をタップする②

スリープ状態になります。
電源スイッチを押すと、中断したときの状態を再現します。

2 スリープ機能を強化する

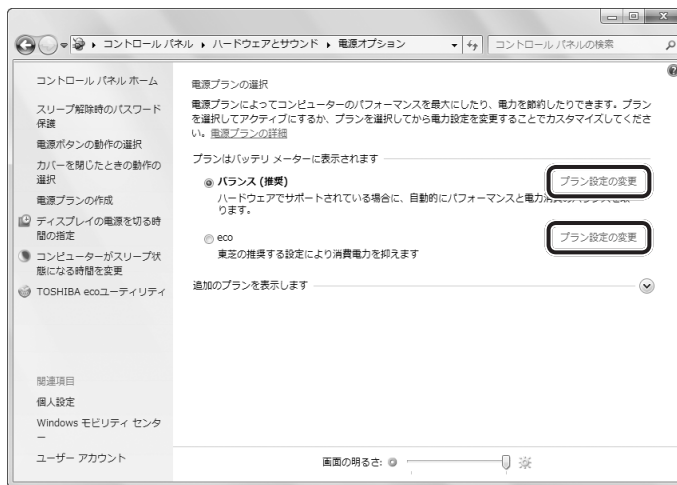
通常のスリープのほかに「ハイブリッド スリープ」という機能が用意されています。
パソコンの使用を中断したとき、それまでの作業をメモリに保存するスリープに対して、ハイブリッド スリープはメモリとハードディスクドライブの両方に保存します。
作業を中断している間にバッテリーの残量が少なくなった場合などは、通常のスリープでは保存されていないデータは消失します。ハイブリッド スリープを有効にしておくと、ハードディスクドライブから作業内容を復元できます。
ハイブリッド スリープを有効にしている状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。
またスリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するようにも設定できます。

参照 休止状態に移行する設定について　本項の「役立つ操作集」

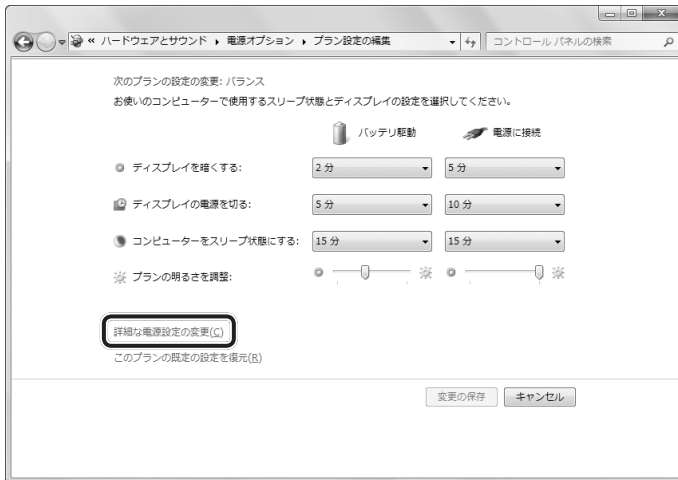
ハイブリッド スリープを有効にするには、次の手順で設定してください。

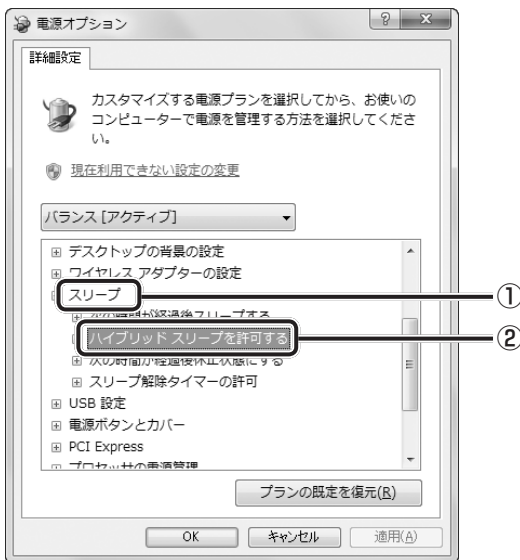
1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタップする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ 電源オプション］をタップし、選択している電源プランの［プラン設定の変更］をタップする

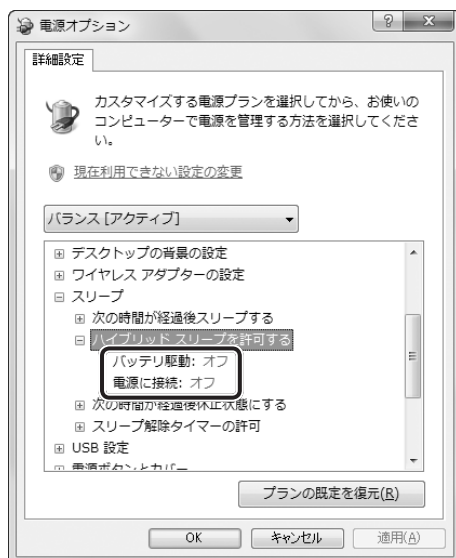
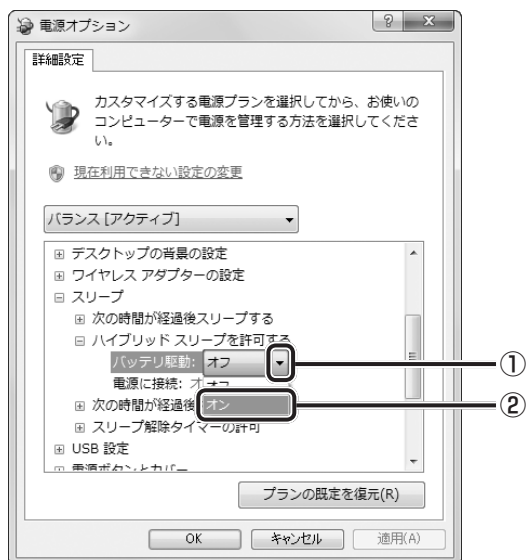
［プラン設定の変更］は、各電源プランの右端に表示されています。選択している電源プランの［プラン設定の変更］をタップしてください。

（表示例）

ハイブリッド スリープの設定は、電源プランごとに必要です。
［プラン設定の編集］画面が表示されます。

3 ［詳細な電源設定の変更］をタップする

［詳細設定］画面が表示されます。

4 ［スリープ］をダブルタップし①、表示される項目から［ハイブリッドスリープを許可する］をダブルタップする②

5 ハイブリッド スリープをONにしたい項目（[バッテリ駆動］／［電源に接続]）をタップする

［バッテリ駆動］：バッテリー駆動時の、ハイブリッド スリープ機能のON／OFFを設定できます。

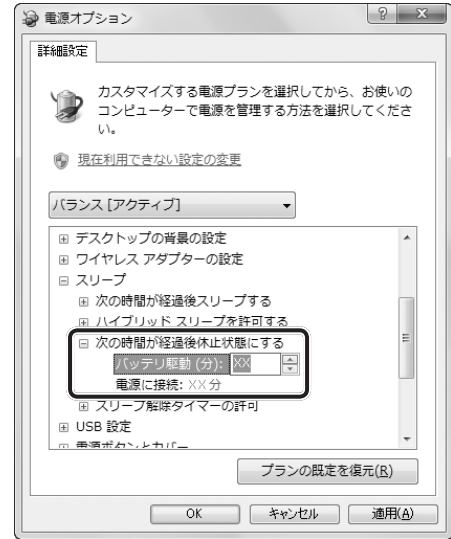
［電源に接続］　：電源に接続してるときの、ハイブリッド スリープ機能のON／OFFを設定できます。

6 項目の横に表示された ▾ をタップし①、表示されたメニューから［オン］をタップする②

7 ［OK］ボタンをタップする

これでハイブリッド スリープを有効にする設定は完了です。
この状態でスリープを実行すると、ハイブリッド スリープとして機能します。

役立つ操作集

一定時間の経過後、休止状態にする

スリープを実行してから一定時間が経過すると、自動的に休止状態に移行するよう設定できます。
［詳細設定］画面で［次の時間が経過後休止状態にする］をダブルタップし、表示された項目を選択して ▲▼ で時間を設定してください。
スリープを実行してから設定した時間が経過すると、自動的に休止状態に移行します。

参照 休止状態「本節 3 休止状態」

3 休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現できます。なお数日以上使用しないときや、付属の説明書で電源を切る手順が記載されている場合（バッテリーパックの取り付け／取りはずしなど）は、休止状態ではなく、必ず電源を切ってください。

1 休止状態の実行方法

1 ［スタート］ボタン（ ）をタップし①、 をタップする②

2 表示されたメニューから［休止状態］をタップする

メニューが表示されない場合は、 をタップしてください。

休止状態から復帰させるときは、電源スイッチを押してください。

メモ

- 「TOSHIBA Flash Cards」を使って、休止状態を実行することもできます。

参照 TOSHIBA Flash Cards「本章 3「TOSHIBA Flash Cards」について」

4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する

［スタート］メニューから操作せずに、パソコン本体の電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じるときに、電源を切る（電源オフ）、またはスリープ／休止状態にすることができます。

1 パソコン本体の電源スイッチを押したときの動作の設定

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタップする

2 ［ システムとセキュリティ］をタップする

3 ［ 電源ボタンの動作の変更］をタップする

4 ［電源ボタンを押したときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］に設定すると、特に変化はありません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 ［変更の保存］ボタンをタップする

パソコン本体の電源スイッチを押すと、選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

2 ディスプレイを閉じるときの動作の設定

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタップする

2 ［ システムとセキュリティ］をタップする

3 ［ 電源ボタンの動作の変更］をタップする

4 ［カバーを閉じたときの動作］で［スリープ状態］［休止状態］［シャットダウン］のいずれかを選択する

［何もしない］［シャットダウン］に設定すると、パネルスイッチ機能は働きません。
「バッテリ駆動」時と「電源に接続」時のそれぞれについて設定してください。

5 ［変更の保存］ボタンをタップする

ディスプレイを閉じると、設定した状態へ移行します。
［スリープ状態］［休止状態］に設定した場合は、次にディスプレイを開くと、自動的にディスプレイを閉じる前の状態が再現されます。

メモ

- ディスプレイを閉じることによって［スリープ状態］［休止状態］のうち、あらかじめ設定した状態へ移行する機能を、パネルスイッチ機能といいます。

3 「TOSHIBA Flash Cards」について

「TOSHIBA Flash Cards」は、デスクトップ上にカードのように表示されるアイコンを選択し、それぞれのカードに割り当てられている機能を設定・実行することができます。

■操作方法

1 Libretto Task Barの をタップする

次のように「TOSHIBA Flash Cards」が表示されます。

（表示例）

2 設定したい機能のカードをタップする

カードとアイコンが表示されます。

3 表示されたアイコンのうち、設定したい項目をタップする

タップしたアイコンの機能に設定されます。

各カードに割り当てられている機能は、「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプを参照してください。

■「TOSHIBA Flash Cards」のヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Flash Cards ヘルプ］をタップする

「TOSHIBA Flash Cards」を使った便利な機能

各キーにはさまざまな機能が用意されています。表示されたカードのアイコンをタップすると、いろいろな操作が実行できます。

カード	内容
［ロック］のカード ロック ロック　キャンセル	コンピューターをワークステーションロック状態にします。 解除するには、ユーザー名をタップしてください。Windowsのログオンパスワードを設定している場合は、画面上のキーボードでパスワード入力欄にWindowsのログオンパスワードを入力し、ENTERキーをタップしてください。
［電源プラン］のカード 電源プラン バランス eco　バランス	表示されたアイコンをタップすると電源プランが切り替わります。 をタップすると、設定されている電源プランが「eco」に設定されます。
［輝度］のカード 輝度 レベル 8 レベル 8 1 2	表示される画面のスライダーバーで輝度の状態を確認できます。スライダーバーのつまみを左端へドラッグすると、本体液晶ディスプレイの輝度が下がります。また、スライダーバーのつまみを右端へドラッグすると、本体液晶ディスプレイの輝度が上がります。
［ワイヤレス］のカード ワイヤレス オン オン >>> オフ　オフ >>> オン　>>> All オン　>>> All オフ　キャンセル	表示されたアイコンをタップすると使用する無線LAN＊1、Bluetooth＊2、WiMAX通信＊3のON／OFFを切り替えます。

＊1 無線LANモデルのみ
＊2 Bluetoothモデルのみ
＊3 WiMAXモデルのみ

カード	内容
［スリープ］のカード スリープ スリープ キャンセル	をタップすると、スリープ機能が実行されます。
［休止状態］のカード 休止状態 休止状態 キャンセル	をタップすると、休止状態が実行されます。

4 ハードディスクドライブ

本製品には、ハードディスクドライブが1台内蔵されています。
内蔵されているハードディスクドライブは、取りはずしできません。
USB接続型のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすことができます。

お願い 操作にあたって

- パソコンを激しく揺らしたり、強い衝撃を与えると、故障の原因となる場合があります。
- あらかじめ、「付録 1 - 4 ハードディスクドライブについて」を確認してください。

ハードディスクに記録された内容は、故障や障害の原因にかかわらず保証できません。
万が一故障した場合に備え、バックアップをとることを推奨します。

SSDについて

本製品は、補助記憶装置として、フラッシュメモリを記憶媒体とするドライブを内蔵しています。
SSD（ソリッドステートドライブ）とは、ハードディスクの記憶媒体である磁気ディスクの代わりに、NANDフラッシュメモリを使用した大容量記憶媒体です。
SSDの補助記憶装置としての機能は、ハードディスクドライブと同等です。
以下の機能についてもご利用いただけます。

- **ハードディスクからのリカバリー**
  ハードディスク同様、SSDからリカバリーできます。

本書および付属の取扱説明書では、HDDとSSDをまとめて「ハードディスクドライブ」と呼びます。

5 画面を見やすく調整する
ーディスプレイー

本製品は表示装置としてTFTカラー液晶ディスプレイを内蔵しています。
ドットは画素数を表します。
外部ディスプレイを直接接続することはできません。

1 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ（輝度）を調整します。輝度は「1〜8」の8段階で設定ができます。

❑ 輝度の調整方法

1 Libretto Task Barの をタップする

2 ［輝度］のカードをタップする

3 表示された画面のスライダーバーのつまみを左右にドラッグして、輝度を調節する

画面に表示されるスライダーバーのつまみの位置と「レベル×」の表示で輝度の状態を確認できます。
スライダーバーのつまみを左端へドラッグすると本体液晶の輝度が下がります。また、スライダーバーのつまみを右端へドラッグすると、本体液晶の輝度が上がります。
スライダーバーの右端の をタップすると、2つのディスプレイの輝度がそれぞれ設定できるようになります。

役立つ操作集

2つのディスプレイに同じ画面を表示する

画面切り替え機能を使うと、上下の2つのディスプレイに同じ画面を表示することができます。上下の画面が同じ表示で、180度回転した状態になるので、向かい合って同じ画面を見たいときに便利です。次の操作方法で、設定してください。

① librettoキーボードで[Windows]+[P]をタップする
②表示されたメニューで［複製］をタップする

2つのディスプレイが同じ表示で、180度回転した状態になります。元の状態に戻す場合は、手順②で［拡張］をタップしてください。

6 サウンド

1 スピーカーの音量を調整する

スピーカーの音量は、次の方法で調整できます。

1 Libretto Task Barで調整する

1 Libretto Task Barの 🔊 をタップする

音量調整ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、音量を大きくしたり小さくしたり、ミュート（消音）の設定をします。
音量調節の詳しい内容については、「librettoソフトウェア」のヘルプを参照してください。

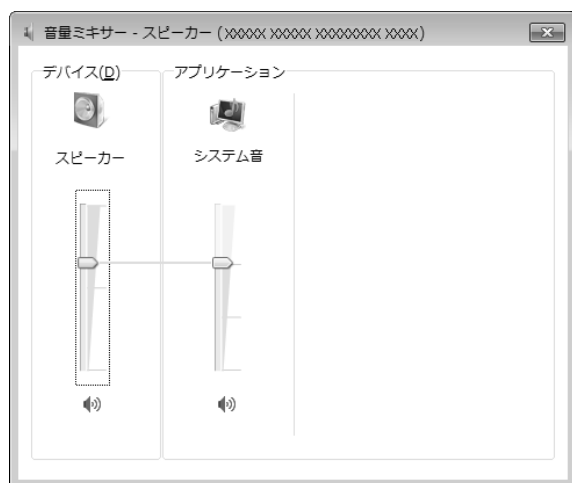
2 音量ミキサーから調整する

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタップする

2 ［ ハードウェアとサウンド］→［ システム音量の調整］をタップする

［音量ミキサー］画面が表示されます。

3 各項目でつまみの上下をタップして調整する

［ミュート］ボタン（ ）をタップすると消音（ミュート）になります。

（表示例）

❑ 音楽／音声を再生するとき

音量ミキサーの各項目では、次の音量が調整できます。

スピーカー	スピーカーの音量を調整します。
システム音	Windowsのプログラムイベント（Windowsの終了、システムエラーなどの動作）で再生されるサウンド設定の音量を調整します。

また、使用するアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』を確認してください。

7 microSDメモリカードを使う
－microSDカードスロット－

本製品では次のmicroSDメモリカードをmicroSDカードスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

● microSDメモリカード*[1]

＊1 著作権保護技術CPRMに対応しています。

microSDメモリカードで使用できる容量については『libretto ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

コンパクトフラッシュメモリカードなどは使用できません。使用する場合はUSB経由で周辺機器（デジタルカメラなど）を接続するか、専用のカードリーダーをご使用ください。

1 microSDメモリカードを使う前に

microSDメモリカードの使用にあたって

● あらかじめ、「付録 2 - 1 microSDメモリカードを使う前に」を確認してください。

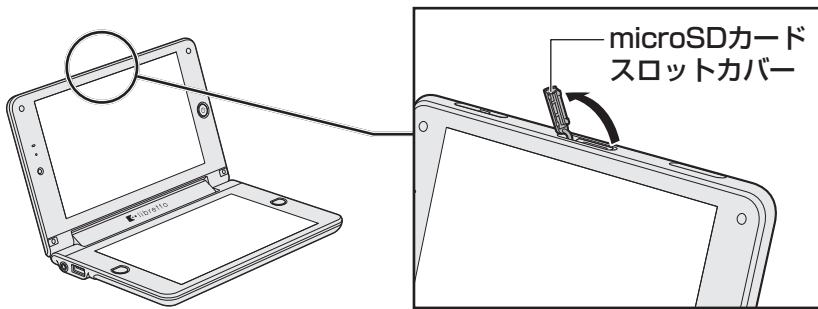
新品のmicroSDメモリカードは、microSDメモリカードの規格に合わせてフォーマットされた状態で販売されています。
フォーマットとは、microSDメモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、microSDメモリカードを使えるようにすることです。
再フォーマットをする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。

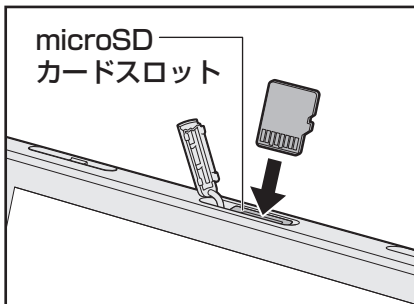
2 カードのセットと取り出し

お願い 操作にあたって

- あらかじめ、「付録 2 - 1 - 1 microSDメモリカードの操作にあたって」を確認してください。

1 セットする

1 microSDカードスロットカバーを開ける

2 microSDメモリカードの表裏を確認し、「microSD」のロゴを裏にしてから金メッキ端子を先頭にして、microSDカードスロットに挿入する

奥まで挿入します。

3 microSDカードスロットカバーを閉じる

2 セットしたmicroSDメモリカードの内容を見る

著作権保護を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コンピューター］をタップする

［コンピューター］画面が表示されます。

2 microSDメモリカードのアイコンをダブルタップする

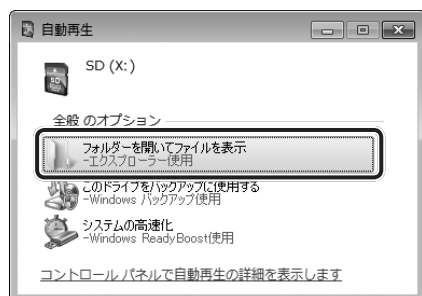
以下の名称は表示の一例です。異なる名称が表示される場合があります。

microSDメモリカード：リムーバブルディスク、セキュリティで保護された記憶域デバイス、SD

（表示例）

セットしたmicroSDメモリカードの内容が表示されます。

メモ

- microSDメモリカードによっては、microSDカードスロットにセットすると、自動的に内容が表示されたり、microSDメモリカードに対する操作を選択する画面が表示される場合があります。選択画面が表示されたときは、［フォルダーを開いてファイルを表示］を選択してください。

（表示例）

3 取り出す

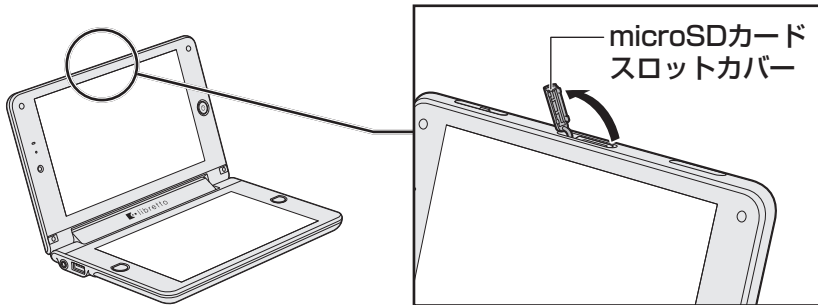
microSDメモリカードに保存しているファイルを使用していたり、ウィンドウを開いたりしていると、取り出しができません。
ウィンドウやファイルを閉じてから、操作を行ってください。

1 microSDメモリカードの使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をタップする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタップしてください。

②表示されたメニューから取り出すメディアカードの項目をタップする
③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をタップする

2 microSDカードスロットカバーを開ける

3 microSDメモリカードを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

4 microSDカードスロットカバーを閉じる

役立つ操作集

「TOSHIBA SD-Video PLAYER」

東芝製パソコン＊[1]にプレインストールされている「Qosmio AV Center」（コスミオ エーブイ センター）で録画して、microSDカード＊[2]にダビングした地上デジタル放送の番組（以下、SD-Video）を、本製品で見ることができます。
本製品でSD-Videoを再生するには、「TOSHIBA SD-Video PLAYER」（トウシバ エスディービデオ プレーヤー）を使います。

＊1 microSDメモリカードへの書き出しに対応している「Qosmio AV Center」が、プレインストールされているモデルを示します。
＊2 CPRM（Content Protection for Recordable Media）という著作権保護技術に対応したmicroSDメモリカードを示します。

「Qosmio AV Center」での録画やダビング方法については、対応している東芝製パソコンに付属の説明書を確認してください。
なお、本製品には、「Qosmio AV Center」はプレインストールされておりません。本製品では、SD-Videoの再生のみ対応しています。
「TOSHIBA SD-Video PLAYER」を使う前に、「付録 1 - 5 - SD-Videoの再生にあたって」をよくお読みください。

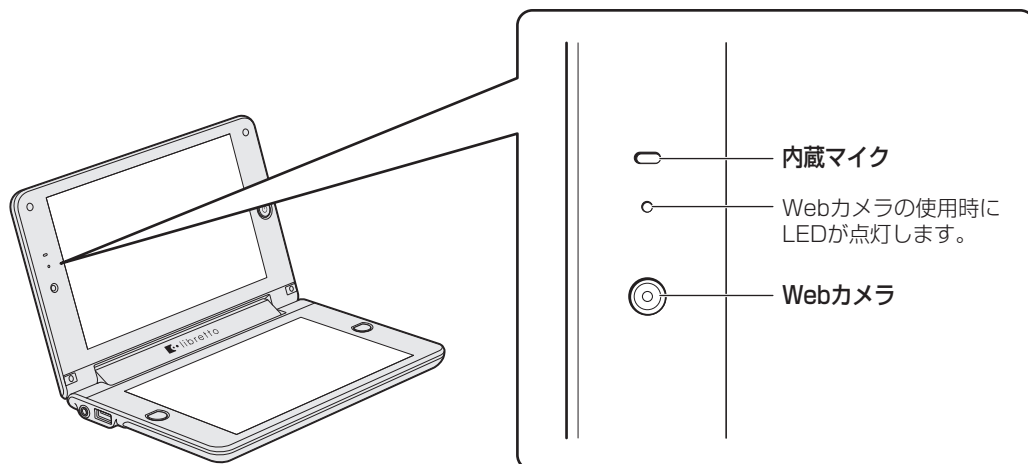
- 起動方法
  ① パコン本体にmicroSDメモリカードをセットする
  ② ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA SD-Video PLAYER］→［TOSHIBA SD-Video PLAYER］をタップする

  「TOSHIBA SD-Video PLAYER」が起動します。「TOSHIBA SD-Video PLAYER」の詳細は、ヘルプを参照してください。

- ヘルプの起動方法
  画面右上の［ヘルプ］ボタン（ ? ）をタップする

2章 パソコンの基本操作を覚えよう

8 Webカメラを使う

本製品には、「Webカメラ」が内蔵されています。
専用のアプリケーションを使うと、インターネット経由で映像を送ったり、ビデオチャットを行ったりできます。

お願い Webカメラについて

- Webカメラに保護シートが貼ってある場合には、Webカメラを使用する前に、必ず保護シートをはがしてください。
- あらかじめ、「付録 1 - 6 Webカメラについて」を確認してください。

1 Webカメラのアプリケーションについて

本製品には、Webカメラ用のアプリケーションが用意されています。

1 起動方法

購入時の状態では、Windowsを起動すると画面左側にWebカメラのアプリケーションが隠れています。カーソルを画面の左隅に向かって動かすと、「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面が表示されます。
アプリケーションを終了させた場合は、次のように操作して起動してください。

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ウェブカメラアプリケーション］をタップする**

「東芝ウェブカメラアプリケーション」が起動します。

2 写真や動画を撮影する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［写真/ビデオ］（ ）を選択してください。
カメラ画面が表示されます。
画面上の各ボタンの概要は、次のようになっています。
詳しくは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

- **左端のボタン**
  画面の解像度を設定できます。
- **［設定］ボタン**
  撮影した画像や映像の保存先や、保存形式、映像品質を設定できます。
- **［キャプチャ］ボタン**
  画面に映っている画像を、写真として撮影します。
- **［録画］ボタン**
  画面に映っている画像を、映像として録画します。
- **右端の［>］ボタン**
  画面右側に表示できるプレビューの、表示／非表示を切り替えます。

3 画面を編集する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［設定］（ ）を選択してください。
設定画面が表示されます。
各タブの概要は、次のようになっています。

- **［全般］タブ**
  明るさやコントラスト、色調、彩度、鮮明度などを設定できます。
- **［アドバンスト］タブ**
  ズーム機能や撮影時のカメラ制御、フォーカス、フラッシュなどを設定できます。

詳しくは、「東芝ウェブカメラアプリケーション」のヘルプを参照してください。

4 画像品質を設定する

「東芝ウェブカメラアプリケーション」の起動画面で、［エフェクト］（ ）を選択してください。
フレームやスクリーンカバーを選択できる、設定画面が表示されます。

ヘルプの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ウェブカメラアプリケーションヘルプ］をタップする

2 顔照合機能

Webカメラを使うアプリケーションに、「TOSHIBA Face Recognition」という顔照合機能があります。
顔照合とは、顔をWebカメラに映して登録し、登録した顔でWindowsのログオン時などに照合させることができる機能です。顔照合機能を使用することによってパスワードなどの入力を省略し、簡単にログオンすることが可能になります。
なお、本機能はセキュリティを目的としたWindowsパスワードの置き換えには適しません。詳しくは、付録の注意事項をお読みになり、ご利用ください。

お願い **顔照合機能の操作にあたって**

- あらかじめ、「付録 1 - 11 顔照合機能について」を確認してください。

起動方法

「TOSHIBA Face Recognition」を起動するには、次の手順を実行してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Face Recognition］をタップする

操作方法の詳細は、「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを参照してください。

ヘルプの起動方法

「TOSHIBA Face Recognition」のヘルプを起動するには、次の手順を実行してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［Face Recognition ヘルプ］をタップする

3章

ネットワークの世界へ

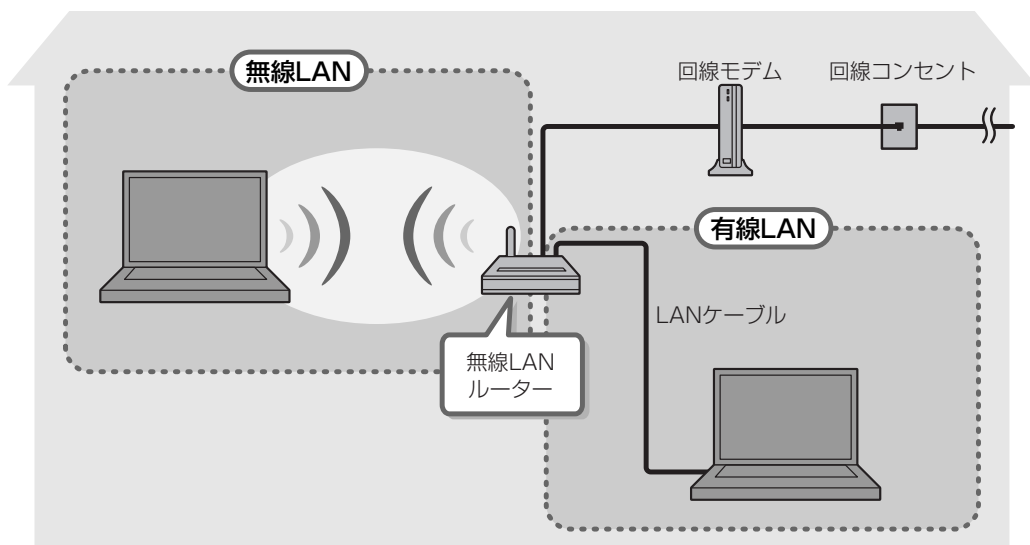
本製品に搭載されている通信に関する機能を説明しています。
ネットワークやほかのパソコンと通信する方法について紹介します。

1　ネットワークで広がる世界 56
2　Bluetooth機能 61
3　WiMAX通信機能 63

1 ネットワークで広がる世界

会社や家庭でそれぞれ自分専用のパソコンを持っている場合、1つのプリンターを共有したいときや、インターネット接続を使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

1 LAN接続はこんなに便利

会社や家庭でそれぞれが自分専用のパソコンを持っている場合や、ひとりで複数のパソコンを持っている場合など、複数のパソコンがあるときは、LAN（ラン）（Local Area Network）を使うと便利です。
LAN機能にはケーブルを使った有線LANと、ケーブルを使わない無線LANがあります。

（接続例）

■無線LAN

無線LANとは、パソコンにLANケーブルを接続していない状態でもネットワークに接続できる、ワイヤレスのLAN機能のことです。モデムやルーターの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピューターをLANシステムに接続できます。
無線LANルーターや無線LANアクセスポイント（市販）を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。
ネットワークに接続したあとに、ファイルの共有の設定や、ネットワークに接続しているプリンターなどの機器の設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をタップして、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。
ネットワークに接続している機器の設定は、それぞれの取扱説明書を確認してください。
また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

2 ワイヤレス（無線）LANを使う

＊無線LANモデルのみ

1 無線LANモジュールの確認

使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類は、「ConfigFree（コンフィグフリー）」を使って確認できます。

参照 「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」

1 通知領域の［ConfigFree］アイコン（ ）をタップする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタップしてください。

2 表示されたメニューでアダプター名を確認する

アダプター名が示すモジュールは、次のようになります。

- **「Intel(R) Centrino(R) Advanced-N 6250 AGN」の場合**
  IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11gおよびIEEE802.11nに対応したモジュールです。また、IEEE802.16e-2005に準拠しています。このモジュールを、「Intel a/b/g/n-WiMAXモジュール」と呼びます。

その他の本製品の無線LANモジュールの仕様については、「付録 6 - 1 無線LANの概要」と『libretto ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を確認してください。

2 無線LANを使ってみよう

⚠警告

- **無線LANモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、「TOSHIBA Flash Cards」で［ワイヤレス］のカードの アイコンをタップして無線通信機能をOFFに切り替えて、電波の発信を止めるようにしてください。

お願い

- あらかじめ、「付録 1 - 7 無線LANについて」を確認してください。
- 『安心してお使いいただくために』に、セキュリティに関しての注意事項や使用上の注意事項を説明しています。
  無線LANを使用する場合は、その記述を読んで、セキュリティの設定を行ってください。

1 「TOSHIBA Flash Cards」で［ワイヤレス］のカードの アイコンをタップしてONに切り替える

ONに切り替わると、ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

以降の無線の設定方法には、次の2種類があります。

- 「ConfigFree」を使う
- Windows標準機能を使う

「ConfigFree」を使って設定する場合は、「本項 2 - 役立つ操作集 - ConfigFree」を参照してください。
また、Windows標準機能を使って設定する場合は、［スタート］ボタン（ ）→［ヘルプとサポート］をタップして、「Windows ヘルプとサポート」を参照してください。

役立つ操作集

ConfigFree

本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。
詳しくは、「ファーストユーザーズガイド」をご覧ください。
「ConfigFree」は、コンピューターの管理者のユーザーアカウントで使用してください。

- **ファーストユーザーズガイドの起動方法**
  ① [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFree ファーストユーザーズガイド] をタップする
- **「ConfigFree」の起動方法**
  購入時の状態では、Windows を起動すると通知領域に「ConfigFree」のアイコン（ ）が表示されています。
  「ConfigFree」を終了させた場合は、次の手順で起動してください。
  ① [スタート] ボタン（ ）→ [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ConfigFree] → [ConfigFree トレイ] をタップする

3 セキュリティの設定

無線LAN機能を使用する場合、セキュリティ設定を行うことをおすすめします。
セキュリティの設定を行っていない場合、さまざまな問題が発生する可能性があります。

参照 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
『安心してお使いいただくために』

これらの問題に対応するためには、無線アクセスポイント、無線LANカードの双方で通信データの暗号化などのセキュリティが必要になります。
本製品には、無線LANを使用するにあたっての問題に対応するためのセキュリティ機能が用意されています。
次のセキュリティ設定を行い、セキュリティ機能を有効にして本製品を使用すれば、それらの問題が発生する可能性を低くすることができます。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタップする

2 ［ インターネットへの接続］をタップ→［ワイヤレス］をタップする

現在のワイヤレスネットワークへの接続状態が表示されます。

3 画面右下の［ワイヤレスネットワーク接続］画面で、接続したいアクセスポイント名をタップする

4 ［自動的に接続する］をチェックし、［接続］ボタンをタップする

5 ［ネットワークに接続］画面で必要なネットワークセキュリティ情報を入力し、［OK］ボタンをタップする

選択する項目、データ暗号化の方式、ネットワーク キーの詳細は、お使いになる無線アクセスポイントの取扱説明書を確認のうえ、正しく設定してください。正しく設定していない場合、無線アクセスポイントに接続できない場合があります。

2 Bluetooth機能

＊ Bluetoothモデルのみ

Bluetoothワイヤレステクノロジーは、パソコンや周辺機器、携帯電話などの機器どうしで無線でデータをやりとりできる、世界標準の通信方式です。
Bluetoothワイヤレステクノロジーを搭載した機器であれば、お互いに通信相手を登録することで、簡単にデータのやりとりができます。
詳細については、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』を参照してください。

参照 起動方法「本節 1 - Bluetoothユーティリティユーザーズガイドの起動方法」

お願い Bluetooth機能の操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 8 Bluetoothについて」を確認してください。

メモ

- Bluetoothのバージョンによっては本製品と通信できないBluetooth対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1、1.2、2.0、2.0+EDR、2.1、2.1+EDRのBluetooth対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz帯の無線LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

1 Bluetooth通信が可能な状態にする

⚠警告

- **Bluetoothモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、「TOSHIBA Flash Cards」で［ワイヤレス］のカードの アイコンをタップして無線通信機能をOFFに切り替えて、電波の発信を止めるようにしてください。

1 「TOSHIBA Flash Cards」で［ワイヤレス］のカードの アイコンをタップしてONに切り替える

ONに切り替わると、ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

2 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［Bluetooth］→［Bluetooth設定］をタップする

初めて起動したときは、Bluetooth用ドライバーのインストールが始まります。インストールが終了するまでお待ちください。
「Bluetooth Manager」が起動し、周辺のBluetooth対応機器を検索する［自動登録］画面が表示されます。すぐにBluetooth対応機器を登録する必要がない場合は、［キャンセル］ボタンをタップしてください。
無線LAN（Wireless LAN）と同時に使用する際の［注意］画面が表示された場合は、内容を確認のうえ、［OK］ボタンをタップして画面を閉じてください。
通知領域に［Bluetooth Manager］アイコン（ ）が表示されます。以降、通知領域に常駐し、次回Windows を起動したときには自動的にアイコンが表示されます。
［Bluetooth Manager］アイコン（ ）はサービスの状態によって表示が異なります。詳細については、『Bluetooth ユーティリティユーザーズガイド』を確認してください。
Bluetoothの電源が入っていない場合には、［Bluetooth Manager］アイコン（ ）をプレス アンド ホールドして表示されたメニューから、［Bluetoothオン］を選択して電源を入れてください。
＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタップしてください。

Bluetoothモデルには、ほかのBluetooth対応機器と通信するためのユーティリティとして「Bluetoothユーティリティ」がプレインストールされています。
初めてBluetoothを使うときには、ユーティリティの設定が必要になります。設定方法や通信する方法については、『Bluetoothユーティリティユーザーズガイド』をご覧ください。

Bluetooth ユーティリティユーザーズガイドの起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［Bluetooth］→［ユーザーズガイド］をタップする

3 WiMAX通信機能

＊ WiMAXモデルのみ

1 WiMAXサービスについて

本製品は、WiMAXサービスに対応しています。
WiMAXサービスを利用するには、WiMAXサービス事業者との契約が必要です。
サービス内容や利用料金、加入手続きなどの詳細については、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。
サービスエリアについては、UQコミュニケーションズ株式会社のホームページをご覧ください。
http://www.uqwimax.jp/service/area/

2 接続の準備

お願い

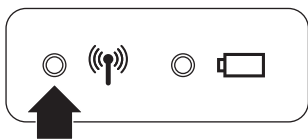
- 無線LANとWiMAXを、同時に使用することはできません。
- BluetoothとWiMAXは近い無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetoothの使用を中止してください。

1 無線通信が可能な状態にする

⚠警 告

- **WiMAXモジュールが内蔵されている製品をお使いになる場合、心臓ペースメーカーを装着している方は、心臓ペースメーカーの装着部位から22cm以上離す**
  電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

飛行機の中や電波の使用が制限されている場所では、「TOSHIBA Flash Cards」の［ワイヤレス］のカードで無線通信機能をOFFに切り替えて、電波の発信を止めるようにしてください。

1 「TOSHIBA Flash Cards」で［ワイヤレス］のカードの「WiMAX」のアイコン（ ）をタップしてONに切り替える

ONに切り替わると、ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。

2 WiMAX機能を有効にする

WiMAX機能を使用するときは、「インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー」で、WiMAX機能をオンにしてください。

お願い

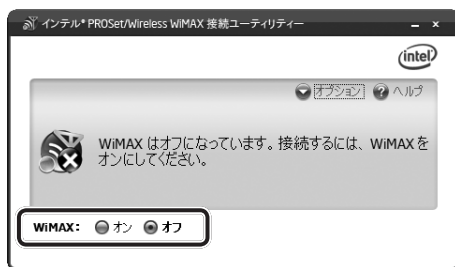
- WiMAX機能を［オン］にすると、無線LAN機能が［オフ］になります。また、無線LAN機能を［オン］にすると、WiMAX機能は［オフ］になります。

1 通知領域の「WiMAX」のアイコン（ ）をダブルタップする

「WiMAX」のアイコンは、通信状態によって表示が異なります。

［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［インテル PROSet Wireless］→［WiMAX 接続ユーティリティー］をタップして起動することもできます。

［インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー］画面が表示されます。

2 ［WiMAX］で［オン］をタップする

［オン］に設定すると、自動的にWiMAXネットワークを検索して画面に表示します。

[WiMAX]の[オン]/[オフ]が選択できない場合

[インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー]画面で、[WiMAX]がグレー表示されていて選択できない場合は、次の手順で操作してください。

①「TOSHIBA Flash Cards」で[ワイヤレス]のカードの「WiMAX」のアイコン( )をタップしてONに切り替える
[WiMAX]のグレー表示が解除され、[オン]/[オフ]を選択できるようになります。

無線LAN機能を使用する場合

WiMAX機能を[オン]から[オフ]に変更しても、無線LAN機能はONになりません。
WiMAX機能を使用したあとに、続けて無線LAN機能を使用する場合は、次の手順で無線LAN機能を[オン]にしてください。

①通知領域の「WiMAX」のアイコン( )をプレス アンド ホールドする
②表示されたメニューから[WiFiオン]をタップする

(表示例)

無線LAN機能がオンになります。
メニューがグレー表示されていて選択できない場合は、「本項[WiMAX]の[オン]/[オフ]が選択できない場合」と同じ手順で操作し、グレー表示を解除してください。

3 WiMAXの通信状態を確認する

次のいずれかの方法で、通信状態を確認してください。
通信圏外の場合は、通信できません。
通信圏内で使用してください。

お願い

- サービスエリア内でも、周囲の環境によっては、通信圏外と表示される場合があります。その場合は、電波の届く場所に移動してください。
- サービスエリアについては、UQコミュニケーションズ株式会社のホームページをご覧ください。
  http://www.uqwimax.jp/service/area/

「WiMAX 接続ユーティリティー」で確認する

「インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー」を起動し、接続したいWiMAXネットワークの信号の強さを確認してください。
 と表示されている場合は、通信圏内です。

参照 起動方法「本節 2 WiMAX機能を有効にする」

3章 ネットワークの世界へ

3 WiMAXサービスを申し込む

WiMAXサービスを利用するには、申し込みが必要です。
本製品に添付されている「インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー」から、専用ホームページに接続して申し込みます。
サービス内容や利用料金、加入手続きなどの詳細については、申し込みホームページを確認してください。

1 申し込みホームページへの接続方法

＊記載している画面は、表示例です。

1 通知領域の「WiMAX」のアイコン（ ）をダブルタップする

「WiMAX」のアイコンは、通信状態によって表示が異なります。
[インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー]画面が表示されます。

2 [WiMAX] が [オン] に設定されていることを確認する

[オン] に設定されていると、自動的にWiMAXネットワークを検索して画面に表示します。

（表示例）

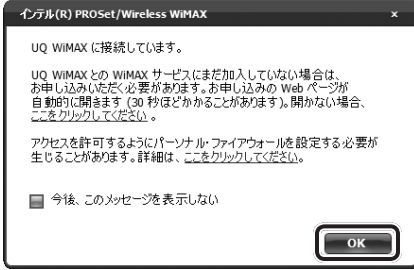
[オフ] に設定されている場合は、[オン] をタップしてください。

[WiMAX] が [オン] に設定されていてもWiMAXネットワークが表示されない場合は、[ネットワークの検索] ボタンをタップしてください。

3 [UQ WiMAXは接続可能です。] と表示されていることを確認し①、[接続] ボタンをタップする②

（表示例）

「UQ WiMAX」への接続が開始され、メッセージが表示されます。

4 メッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをタップする

自動的に申し込みホームページが表示されます。
以降は、ホームページの指示に従って操作してください。

メモ

- 手順 4 の画面以外にも、操作の途中で「インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー」からメッセージが表示された場合は、メッセージの指示に従って操作してください。

2 申し込み完了後、インターネットに接続するには

WiMAXサービスへの加入手続きが完了すると、WiMAXネットワークでインターネットに接続できます。
［インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー］画面で、接続したいWiMAXネットワークを選択し、［接続］ボタンをタップしてください。

インターネットへの接続を切断するには

［インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー］画面で、［切断］ボタンをタップしてください。

4 困ったときは

通信ができないときは、次のような流れで確認してください。

WiMAX機能を有効にする

参照 「本節 2 - 1 無線通信が可能な状態にする」

参照 「本節 2 - 2 WiMAX機能を有効にする」

Bluetooth機能を無効にする

＊Bluetooth機能を搭載しているモデルのみ

参照 「本章 2 Bluetooth機能」

接続の設定を確認する

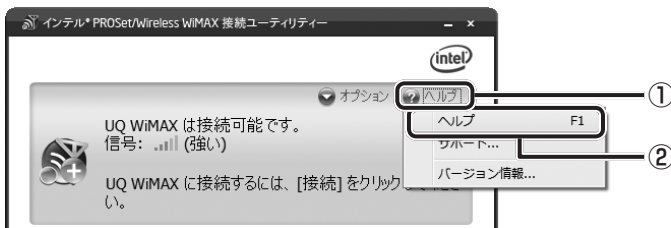
参照 「本節 3 WiMAXサービスを申し込む」

通信圏外でないことを確認する

参照 「本節 2 - 3 WiMAXの通信状態を確認する」

ヘルプの起動方法

「インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティ」の詳細は、ヘルプを確認してください。起動方法は、次のとおりです。

1 画面右上の［ヘルプ］をタップし①、表示されたメニューから［ヘルプ］をタップする②

5 お問い合わせ先

WiMAXサービスについて

次の内容は、ご契約のプロバイダーにお問い合わせください。

- 回線の契約（新規・変更・確認・解除）
- お支払い方法
- 資料請求
- サービスエリア
- 料金プラン
- 認証情報について

パソコン本体について

次の内容は、東芝PCあんしんサポート（『librettoガイド』巻末参照）にお問い合わせください。

- パソコン本体の取り扱い・設定・修理のご相談
- 「インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー」について

WiMAX接続設定について

次の場合は、WiMAX接続設定がご購入時の状態に戻ります。
インターネット接続ができない場合は、ご契約のプロバイダーへご連絡ください。

- WiMAXドライバーを更新した場合
- リカバリー（再セットアップ）を行った場合
- 「インテル® PROSet/Wireless WiMAX 接続ユーティリティー」で、［出荷時のデフォルト設定に戻す］を選択した場合

修理／廃棄／譲渡するときは

次の場合は、登録内容の変更が必要になりますので、ご契約のプロバイダーへご連絡ください。

- 修理などで無線モジュールの交換を行った場合
- 廃棄／譲渡（売却を含む）などで本製品を使わなくなった場合
- 本製品に搭載されているWiMAX通信機能が不要になった場合

4章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しましょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の紹介と、よく使う周辺機器の取り付けかたや各種設定、取り扱いについて説明しています。

1　周辺機器を使う前に 72
2　USB対応機器を使う........................ 73
3　ヘッドホンを使う 75

1 周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことで、デバイスともいいます。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、パソコンが持っていない機能を広げることができます。
周辺機器には、パソコンのカバーを開けて、パソコンの中に取り付ける内蔵方式のものと、パソコン本体の周囲にあるコネクタや端子、スロットにつなぐ外付け方式のものがあります。

■内蔵方式のもの

- バッテリー

■外付け方式のもの

本製品のインターフェースに合った周辺機器をご利用ください。
周辺機器によっては、インターフェースなどの規格が異なることがあります。インターフェースとは、機器を接続するときのケーブルやコネクタや端子、スロットの形状などの規格のことです。
購入される際には、目的に合った機能を持ち、本製品に対応している周辺機器をお選びください。
周辺機器が本製品に対応しているかどうかについては、その周辺機器のメーカーに確認してください。

参照 コネクタの仕様について「付録 5 各インターフェースの仕様」

周辺機器の取り付け／取りはずしにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 9 周辺機器について」を確認してください。

本製品で使用できるおもな周辺機器は、次のとおりです。

- USB対応機器

  参照 USB対応機器「本章 2 USB対応機器を使う」

- ヘッドホン

  参照 ヘッドホンの接続「本章 3 ヘッドホンを使う」

2 USB対応機器を使う

USB(ユーエスビー)対応機器は、電源を入れたまま取り付け／取りはずしができます。
また、新しい周辺機器を接続すると、システムがドライバーの有無をチェックし、自動的にインストールを行うプラグアンドプレイに対応しています。
USB対応機器には次のようなものがあります。

- USB対応マウス
- USB対応キーボード
- USB対応プリンター
- USB対応スキャナー
- USBフラッシュメモリ

など

本製品のUSBコネクタにはUSB2.0対応機器とUSB1.1対応機器を取り付けることができます。
USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い USB対応機器の操作にあたって

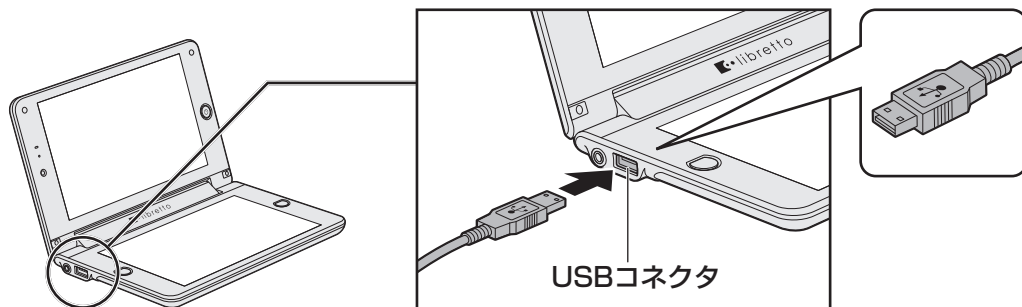
- あらかじめ、「付録 1 - 9 - USB対応機器の操作にあたって」を確認してください。

1 取り付け

1 USBケーブルのプラグをUSB対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。USB対応機器の詳細は、『USB対応機器に付属の説明書』を確認してください。

2 USBケーブルのもう一方のプラグをパソコン本体のUSBコネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

2 取りはずし

1 USB対応機器の使用を停止する

①通知領域の［ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す］アイコン（ ）をタップする

＊通知領域にアイコンが表示されていない場合は、 をタップしてください。
この操作を行ってもアイコンが表示されないUSB対応機器は、次の手順は必要ありません。
手順 2 に進んでください。

②表示されたメニューから取りはずすUSB対応機器の項目をタップする
③「ハードウェアの取り外し」のメッセージが表示されたら、 をタップする

2 パソコン本体とUSB対応機器に差し込んであるUSBケーブルを抜く

4章 周辺機器を使って機能を広げよう

3 ヘッドホンを使う

本製品には、ヘッドホンを接続できます。
ヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

1 ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。
ヘッドホンのプラグは、直径3.5mmステレオミニジャックタイプを使用してください。

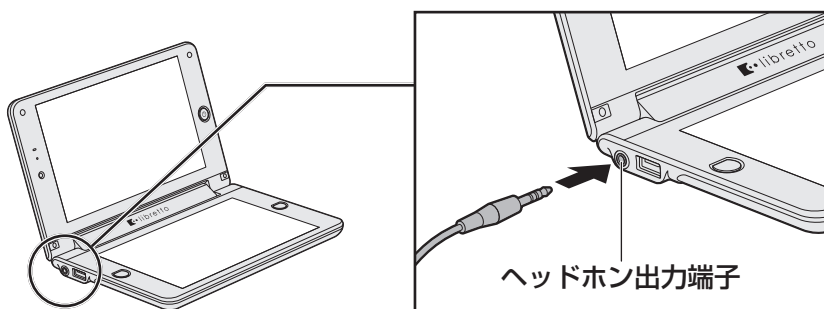
お願い ヘッドホンの操作にあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 9 - ヘッドホンの操作にあたって」を確認してください。

本製品にはサウンド機能が搭載されています。
ヘッドホンの音量はLibretto Task Bar、またはWindowsの音量ミキサーで調節してください。

参照 「2章 6 サウンド」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

5章

バッテリー駆動で使う

パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。
ここでは、充電や充電量の確認などについて説明しています。

1　バッテリーについて 78
2　省電力の設定をする 83

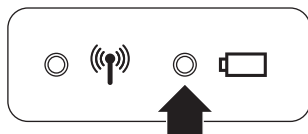
1 バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。
バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプターを接続しない状態）で使うことができます。
本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。
バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプターを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。
指定する方法・環境以外でバッテリーパックを使用した場合には、発熱、発火、破裂するなどの可能性があり、人身事故につながりかねない場合がありますので、十分ご注意をお願いします。
『安心してお使いいただくために』や『librettoガイド』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

1 バッテリー充電量を確認する

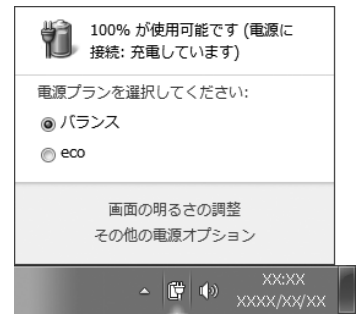
バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 システムインジケーターで確認する

ACアダプターを使用している場合、DC IN／Battery LEDが点灯します。

DC IN／Battery LEDは次の状態を示しています。

緑色	充電完了
オレンジ色	充電中
オレンジ色の点滅	充電が必要 参照 バッテリーの充電について「本節 2 バッテリーを充電する」
消灯	・ACアダプターが接続されていない ・バッテリーが接続されていない 上記のいずれにも当てはまらない場合は、バッテリー異常の可能性があります。東芝PCあんしんサポートに連絡してください。

2 通知領域の［バッテリー］アイコンで確認する

通知領域の［バッテリー］アイコン（ ）をタップすると、バッテリー充電量や電源プランなどが表示されます。
1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプターを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、DC IN／Battery LEDや［バッテリー］アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- DC IN／Battery LEDがオレンジ色に点滅する（バッテリーの残量が少ないことを示しています）
- バッテリーのアラームが動作する
  「電源オプション」で［プラン設定の変更］→［詳細な電源設定の変更］をタップして表示される［詳細設定］タブの［バッテリ］→［バッテリ低下の通知］や［バッテリ切れの操作］で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

参照 省電力設定（電源オプション）について「本章 2 省電力の設定をする」

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

①パソコン本体にACアダプターを接続し、充電する
②電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、DC IN／Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックのほかに、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。
時計用バッテリーの充電は、ACアダプターを接続し電源を入れているとき（電源ON時）に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。
時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながすWarning（警告）メッセージが出ます。

■充電完了までの時間

時計用バッテリーは電源ON（Power LEDが白色に点灯）の状態にしておくと、約24時間で充電が完了します。
実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

2 バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い バッテリーを充電するにあたって

- あらかじめ、「付録 1 - 10 - バッテリーを充電するにあたって」を確認してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプターを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN／Battery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。
電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON／OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 DC IN／Battery LEDが緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中はDC IN／Battery LEDがオレンジ色に点灯します。
DC IN／Battery LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプター、電源コード、バッテリーの接続を確認してください。

メモ

- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■充電完了までの時間

バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けているとき、アプリケーションを使用しているときは、充電完了まで時間がかかることがあります。
詳しくは、『libretto ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。
詳しくは、『libretto ＊＊＊＊（お使いの機種名）シリーズをお使いのかたへ』を参照してください。

■バッテリー駆動時の処理速度

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するためにACアダプターを接続してご使用ください。

■使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。
スリープを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態、またはハイブリッドスリープにすることをおすすめします。

参照 ハイブリッドスリープについて「2章 2 - 2 - 2 スリープ機能を強化する」

2 バッテリーを長持ちさせる

本製品のバッテリーをより有効に使うための工夫を紹介します。

バッテリーの機能低下を比較的遅くする方法

次の点に気をつけて使用すると、バッテリーの機能低下を比較的遅くすることができます。

- パソコンとACアダプターをコンセントに接続したままの状態で、パソコンを長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- おもにACアダプターを接続してパソコンを使用し、バッテリーパックの電力をほとんど使用しないなど、100%の残量近辺で充放電をくり返すとバッテリーの劣化を早める場合があります。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプターをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。

バッテリー充電量を節約する方法

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

  参照 「2章 2 - 3 休止状態」
- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

  参照 「2章 2 - 4 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する」
- 省電力の電源プランを設定する

  参照 詳細について「本章 2 省電力の設定をする」

バッテリーの充電能力を調べる

バッテリーは、消耗品です。バッテリーを交換する目安を調べることができます。

参照 「6章 3 パソコンの動作状況を監視し、記録する」

3 バッテリーパックを保管する

バッテリーパックを保管するときは、次の説明をお読みください。
また、『安心してお使いいただくために』や『librettoガイド』にも、バッテリーパックを保管するときの重要事項が記述されています。あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

- 充電状態の電池を放置しておくと電池が劣化し、もう一度充電したときの容量が減少してしまいます。この劣化は、保存温度が高いほど早く進みます。
- バッテリーパックの電極（金属部分）がショートしないように、金属製ネックレス、ヘアピンなどの金属類と混在しないようにしてください。
- 落下したり衝撃がかかったりしないよう安定した場所に保管してください。

2 省電力の設定をする

1 電源オプション

「電源オプション」ではパソコンの電源を管理して、電力の消費方法を状況に合わせて変更することができます。
バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らして長い時間使用するように設定したり、電力を使ってパフォーマンスの精度を上げるように設定したりできます。
これらの電源設定を電源プランといいます。
「電源オプション」では、使用環境にあわせて設定された電源プランがあらかじめ用意されていますので、使用環境が変化したときに電源プランを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができます。
購入時には、次の電源プランが用意されています。

- **バランス**
  必要なときは電力を使ってパフォーマンスを最大にし、動作させていないときは電力を節約します。
- **eco**
  ＊東芝ecoユーティリティ搭載モデルのみ
  東芝の推奨する設定により、消費電力を抑えます。
  参照 「本項 1 - 役立つ操作集 - 東芝ecoユーティリティ」
- **省電力**
  パソコンの動作速度などのパフォーマンスを低下させ、消費電力を抑えます。
  バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常より長くもちます。
- **高パフォーマンス**
  パフォーマンスと応答速度を最大にします。バッテリー駆動のときにこのプランを使用すると、バッテリーが通常よりも早く消費されます。

＊「省電力」、「高パフォーマンス」は［追加のプランを表示します］の をタップすると表示されます。

各電源プランの設定を変更したり、新しく電源プランを追加することもできます。詳しくは、「電源オプション」のヘルプをご覧ください。

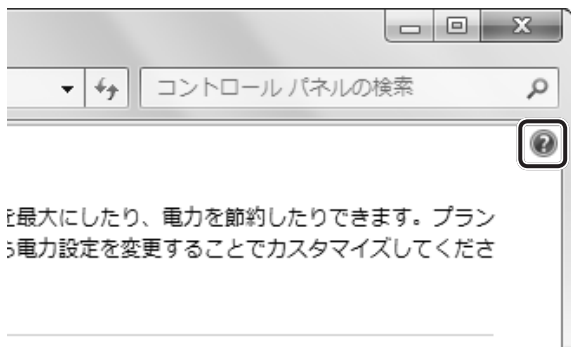
1 起動方法

1 [スタート] ボタン（ ）→［コントロールパネル］をタップする

2 [システムとセキュリティ] →［ 電源オプション］をタップする

「電源オプション」が起動します。

ヘルプの起動方法

1 「電源オプション」を起動後、画面右上の ボタンをタップする

2 表示された一覧から知りたい項目をタップする

該当するページが表示されます。

役立つ操作集

東芝ecoユーティリティ

＊ 東芝ecoユーティリティ搭載モデルのみ

東芝の推奨する設定により、電源プランやディスプレイの明るさなどを自動的に調節して、消費電力を抑えます。
詳しくは、「東芝ecoユーティリティ」のヘルプをご覧ください。

- **起動方法**

  ① [スタート] ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［ecoユーティリティ］をタップする
  初回起動時は、[はじめにお読みください] 画面が表示されますので、[同意する] をチェックし、[OK] ボタンをタップしてください。

  [TOSHIBA ecoユーティリティ] 画面が表示されます。

- **ヘルプの起動方法**

  ① [TOSHIBA ecoユーティリティ] 画面で [ヘルプ] ボタンをタップする
  「TOSHIBA ecoユーティリティ」のヘルプが表示されます。

6章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1　東芝HWセットアップ 86
2　パスワードセキュリティ 87
3　パソコンの動作状況を監視し、記録する
　　－東芝PCヘルスモニター－ 90

1 東芝HWセットアップ

「東芝HWセットアップ」を使い、Windows上でハードウェアの設定を変更できます。
複数のユーザーで使用する場合も、設定内容は全ユーザーで共通になります。

起動方法

1 **［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をタップする**

［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。

2 **各タブで機能を設定し、［OK］ボタンをタップする**

［キャンセル］ボタンをタップした場合は、設定が変更されません。

ヘルプの表示方法

1 **［東芝HWセットアップ］画面上で、知りたい項目の上へ指をドラッグするように移動させ、そこで指を離してしばらく（約5秒）待つ**

項目に対するヘルプが表示されます。
ヘルプが見えにくい場合は、マウスを使用して、知りたい項目にポインターを合わせてください。

2 パスワードセキュリティ

本製品ではパスワードを設定できます。パスワードには大きく分けて次の２種類があります。

- **Windowsのログオンパスワード**
  - ・Windowsにログオンするとき
  - ・ワークステーションロック状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバーを解除するとき

参照 ワークステーションロック機能
「2章 3 -「TOSHIBA Flash Cards」を使った便利な機能」

- **ユーザーパスワード**
  - ・電源を入れたときや休止状態から復帰するとき

  ユーザーパスワードを登録すると、電源を入れたときなどにパスワードの入力が必要になります。

ここでは、ユーザーパスワードの設定方法について説明します。

メモ

- パスワードを登録した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えてください。
- パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作は行わず、キーボードの文字キーから直接入力してください。

お願い

- パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、使用している機種を確認後、東芝PCあんしんサポートに連絡してください。
  パスワードの解除を東芝PCあんしんサポートに依頼する場合は有料です。またそのとき、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。

パスワードとして使用できる文字

パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

使用できる文字	数字（半角）１２３４５６７８９
使用できない文字	・数字（半角）０ ・数字（半角）以外

パスワード登録時に警告メッセージが表示された場合は、登録しようとした文字列に使用できない文字が含まれています。この場合、もう１度別の文字列を入力し直してください。
また文字列は必ずキーボードから１文字ずつ直接入力してください。

1 ユーザーパスワードの設定

「東芝HWセットアップ」でユーザーパスワードの設定や設定の変更ができます。

1 ユーザーパスワードの登録

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をタップする

［東芝HWセットアップ］画面が表示されます。

2 ［パスワード］タブで［ユーザーパスワード］の［登録］をチェックする

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 キーボードボタンを1回押す

librettoキーボードが表示されます。

4 ［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをタップする

パスワードは10文字以内で入力します。

参照 パスワードに使用できる文字「本節 - パスワードとして使用できる文字」

パスワードは「＊＊＊＊＊（アスタリスク）」で表示されますので画面で確認できません。間違えないよう、気をつけて入力してください。
パスワードを入力するときは、コード入力や貼り付け（ペースト）などの操作を行わず、キーボードの文字キーを押して直接入力してください。

5 ［パスワードの確認］に手順 4 で入力したパスワードをもう1度入力し、［OK］ボタンをタップする

6 表示されるメッセージを確認し、［OK］ボタンをタップする

パスワードが登録されます。

メモ

- パスワードを忘れてしまったときのために、必ずパスワードを控えてください。

2 ユーザーパスワードの削除

ユーザーパスワードを削除するには、次の手順を実行してください。

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［HWセットアップ］をタップする

2 ［パスワード］タブで［ユーザーパスワード］の［未登録］をチェックする

パスワードを入力する画面が表示されます。

3 librettoキーボードを使って［パスワードの入力］にパスワードを入力し、［OK］ボタンをタップする

パスワードが削除されます。
パスワードの入力エラーの場合は、もう１度手順 2 から操作を行ってください。
入力エラーが３回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう１度手順 1 から削除の操作を行ってください。

4 表示されたメッセージの内容を確認し、［OK］ボタンをタップする

3 ユーザーパスワードの変更

ユーザーパスワードを変更したい場合は、ユーザーパスワードを削除してから、新たに登録してください。

2 ユーザーパスワードの入力

パスワードが設定されている場合、電源を入れたときや休止状態から復帰するときにパスワード入力画面が表示されます。
この場合は、次の手順を行ってパソコンを起動します。

1 画面上のキーボードでパスワードを入力し、ENTERキーをタップする

参照 「2章 1 - 1 メッセージが表示された場合」

パスワードの入力ミスを３回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

3 パソコンの動作状況を監視し、記録する ー東芝PCヘルスモニターー

「東芝PCヘルスモニタ」は、消費電力やバッテリー充電能力、冷却システムなどを監視し、システムの状態をメッセージなどでお知らせします。また、パソコン本体および各種デバイスの使用状況を、収集管理します。

「東芝PCヘルスモニタ」の機能は、ヘルプで確認できます。

お願い

- 「東芝PCヘルスモニタ」は、いかなる場合も東芝の標準的な保証の範囲を広げるものでも変更するものでもありません。東芝の標準的な保証が適用されます。

メモ

- 収集管理されるパソコン本体や各種デバイスの情報、および使用状況の情報は、パソコン本体のハードディスク上に保存されます。これらは、PCの基本情報（たとえば、モデル名、型番、製造番号、BIOSバージョン等）、各種デバイスの基本情報（たとえば、ディスプレイ、サウンド、ネットワーク、ハードディスクドライブ、ドライブ等）、オペレーティングシステム情報（たとえば、OSバージョン、OSをインストールした日時、Direct Xのバージョン、Internet Explorerのバージョン、修正プログラムのリスト等）、各種デバイスの操作時間／回数（たとえば、電源スイッチ、ACアダプター、バッテリーパック、ディスプレイ、ファン、ハードディスク、USB）、パソコンの使用開始日付、パソコン本体や各種デバイスの使用状況（たとえば、省電力設定、バッテリーパックの温度や放充電容量、CPU、メモリ、バックライトの点灯時間、各種デバイスの温度）を含みます。ハードディスクに保存されるデータの量は1年間で10MB以下であり、ハードディスクの全体容量のわずかしか使用しません。
- これらの情報は、システム状態の監視と通知、および、パソコンが東芝PCあんしんサポートに持ち込まれたときの不具合の診断に使用します。また、東芝はそれらの情報を品質保証適用の判断に使用することもあります。
- 「東芝PCヘルスモニタ」は、一度有効にした場合でも、「コントロールパネル」からアンインストールすることで、本機能を動作しないようにすることができます。その際、ハードディスクに記録されている「東芝PCヘルスモニタ」が採取したデータは自動的に削除されます。

1 起動について

ここでは、「東芝PCヘルスモニタ」の起動方法について説明します。

1 起動方法

1 ［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA］→［ユーティリティ］→［PCヘルスモニタ］をタップする

初めて起動したときは、「東芝PCヘルスモニタ」の説明画面が表示されます。［次へ］ボタンをタップすると、［東芝PCヘルスモニタについての注意事項およびデータの収集と利用の許諾］画面が表示されます。画面に表示された内容を確認し、注意と許諾の内容に同意のうえ、［同意する］を選択し、［OK］ボタンをタップしてください。
「東芝PCヘルスモニタ」が起動し、パソコンの機能の監視と使用状況の情報収集管理を開始します。システムの状態は表示される画面で確認できます。

メモ

- 「東芝PCヘルスモニタ」の利用の許諾に同意し、一度プログラムを有効にすると、「東芝PCヘルスモニタ」の画面を閉じても、パソコンの機能の監視と使用状況の情報収集管理は続行されます。この場合、不調の原因となりうる変化が検出されたときは、通知領域の［東芝PCヘルスモニタ］アイコン（ ）からメッセージが表示されます。

ヘルプの起動方法

1 ［東芝PCヘルスモニタ］画面の［ヘルプ］ボタンをタップする

付録

本製品の機能を使用するにあたってのお願いや技術基準適合などについて記しています。

1　ご使用にあたってのお願い 94
2　記録メディアについて. 100
3　お客様登録の手続き 102
4　技術基準適合について. 104
5　各インターフェースの仕様 105
6　無線LANについて 106
7　Bluetoothについて 114

1 ご使用にあたってのお願い

本書で説明している機能をご使用にあたって、知っておいていただきたいことや守っていただきたいことがあります。次のお願い事項を、本書の各機能の説明とあわせて必ずお読みください。

1 パソコン本体について

スイッチ／ボタン／画面の操作にあたって

- スイッチ／ボタン／画面を強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。故障するおそれがあります。

2 バックアップについて

バックアップをとるにあたって

- ハードディスクドライブや記録メディアに保存しているデータは、万が一故障が起きた場合や、変化／消失した場合に備えて定期的にバックアップをとって保存してください。
  ハードディスクドライブや記録メディアに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いません。
- ユーザー名がリカバリー後と異なる場合、バックアップしたデータが復元できない場合があります。リカバリーをする前にユーザー名を控えてください。

参照 リカバリーについて『librettoガイド』

3 「PC引越ナビ」について

前のパソコンの動作環境について

- すべてのパソコンでの動作確認は行っておりません。したがって、すべてのパソコンでの動作は保証できません。

操作にあたって

- 「1章 3 - 2 起動方法」を参照して、注意制限事項を確認してください。
- こん包プログラムが作成するこん包ファイルを分割される場合、分割されるこん包ファイルの大きさは、最大2GBとなります。
- 「PC引越ナビ」がこん包ファイルで同時に移行できるファイル数は、最大65,000ファイルです。
- こん包プログラムからこん包ファイルを作成するには、作成される予定のこん包ファイルの大きさの約2.3倍の空き容量が、保存先の装置に必要です。

4 ハードディスクドライブについて

操作にあたって

- データの書き込み中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。
- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万が一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的にUSBフラッシュメモリやmicroSDメモリカードなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、USBフラッシュメモリ、microSDメモリカードなどに保存した内容の損害については、当社はいっさいその責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 磁石、スピーカー、テレビ、磁気ブレスレットなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷が付いて、使えなくなることがあります。磁性面に付いた傷の修理はできません。

5 SD-Videoの再生にあたって

本項では、「SD-Video」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、「Qosmio AV Center」で録画してmicroSDメモリカード*1にダビングした地上デジタル放送の番組を示します。

＊1 CPRM（Content Protection for Recordable Media）という著作権保護技術に対応したmicroSDメモリカードを示します。

- 「TOSHIBA SD-Video PLAYER」を使用するためには、ユーザーアカウント制御を[通知しない]以外に設定してください。
  「TOSHIBA SD-Video PLAYER」の起動時、[ユーザー アカウント制御]画面が表示され、コンピューターへの変更の許可が求められます。
  [はい]を選択すると「TOSHIBA SD-Video PLAYER」が実行できます。
  管理者以外のユーザーアカウントの場合には、管理者のパスワードの入力が必要です。
- 「TOSHIBA SD-Video PLAYER」は横置きで使用してください。縦置き（ポートレートモード）では再生できません。
- ワンセグ映像をダビングしたmicroSDメモリカードは再生できません。
- SD-Videoタイトルは、主に携帯電話での再生を想定して作成されています。このため、パソコンの画面で再生すると画像が粗くなったり、ノイズなどが目立つ場合があります。パソコンで再生する場合は、「Qosmio AV Center」でmicroSDメモリカードにダビングする際、高画質モードの選択をおすすめします。
  ＊microSDメモリカードへのダビング機能は、「Qosmio AV Center」を搭載する一部のモデルでご利用になれます。
- SD-Videoのタイトルによっては、映像のコマ落ちや音声の音飛び、または映像と音声のずれ（同期ずれ）が発生する場合があります。

- SD-Videoの再生には、「TOSHIBA SD-Video PLAYER」を使用してください。
  その他の市販ソフトを使用してSD-Videoを再生すると、表示が乱れたり、再生できないことがあります。
- SD-Video再生ソフト「TOSHIBA SD-Video PLAYER」では、SD-Videoの再生ができます。SD-Video以外（DVDビデオ、DVD-VR、Video CD、Audio CD、MP3など）は再生できません。
- 「TOSHIBA SD-Video PLAYER」の起動中は、ACアダプターを接続することをおすすめします。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができないことがあります。
- 「TOSHIBA SD-Video PLAYER」の起動中は、ほかのアプリケーションを終了させてください。また、再生中にはほかのアプリケーションを起動させたり、不要な操作は行わないでください。正常な再生ができない場合や再生が停止する場合があります。
- 「TOSHIBA SD-Video PLAYER」の起動中に、休止状態やスリープの状態に移行する操作、およびWindowsユーザーの切り替えを行わないでください。「TOSHIBA SD-Video PLAYER」は自動的に終了します。また、復帰時にエラーメッセージが表示されることがあります。この場合は、1度「TOSHIBA SD-Video PLAYER」を終了して再度起動してください。
- 「TOSHIBA SD-Video PLAYER」の起動中は、コンピューターのロック状態に移行する操作（TOSHIBA Flash Cardsの［ロック］のカードの操作）をしないでください。
- 休止状態やスリープ状態からの復帰を含め、「TOSHIBA SD-Video PLAYER」起動の際は、必ずタイトル先頭からの再生となります。
- 再生する回数や、再生できる期限が設定されたタイトルは、再生することができません。
- USBで接続したSDメモリカードスロットや、USBで接続した携帯電話に挿入されたmicroSDメモリカード上のSD-Videoタイトルには対応していないため、正しく再生できない場合があります。
- 映像表示ウィンドウが上下2つの画面にまたがる場合は、映像を表示することができず、黒い画面になります。
- 映像表示ウィンドウを上下2つの画面間で移動させたい場合は、再生を停止している状態で移動させてください。再生中や一時停止中に移動させると、映像を表示することができなくなり黒い画面になります。再生中の場合は、音声も途切れます。

その他の注意については、「TOSHIBA SD-Video PLAYER」のヘルプに記載しています。
「TOSHIBA SD-Video PLAYER」のヘルプの起動は、［スタート］ボタン（ ）→［すべてのプログラム］→［TOSHIBA SD-Video PLAYER］→［TOSHIBA SD-Video PLAYER ヘルプ］をタップしてください。

6 Webカメラについて

Webカメラを使用するにあたって

- Webカメラを太陽に直接向けないでください。
- Webカメラのレンズ部分に触れたり、強く押したりしないでください。画質が低下する原因となります。
  レンズ部分が汚れた場合は、眼鏡ふき（クリーナークロス）などの柔らかい布でふいてください。

7 無線LANについて

無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。
  また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国／地域で適用される無線規制については、「付録 6 無線LANについて」を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録 6 - 7 使用できる国／地域について」を確認してください。

無線LANの操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。
- アドホックネットワーク機能で、設定されているネットワーク名へのネットワーク接続が不可能になる場合があります。
  この場合、再度ネットワーク接続を可能にするには、同じネットワーク名で接続されていたコンピューターすべてに対して、新たに別のネットワーク名で設定を行う必要があります。

8 Bluetoothについて

- 本製品は、すべてのBluetooth対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべてのBluetooth対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品のBluetooth機能を使用できる国／地域については、「付録 7 - 6 使用できる国／地域について」を確認してください。

9 周辺機器について

周辺機器の取り付け／取りはずしについて

- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。4章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
  - ・ホットインサーションに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから作業を行ってください。ホットインサーションとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
  - ・適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
  - ・ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
  - ・極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
  - ・静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
  - ・本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向を合わせてください。
  - ・パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

USB対応機器の操作にあたって

- 電源供給を必要とするUSB対応機器を接続する場合は、USB対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB対応機器を使用するには、システム（OS）が対応しており、機器用ドライバーがインストールされている必要があります。
- すべてのUSB対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべてのUSB対応機器の動作は保証できません。
- USB対応機器を接続したままスリープまたは休止状態にすると、復帰後USB対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

❑ 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- USBフラッシュメモリやUSB接続のハードディスクドライブなど、記憶装置のUSB対応機器を取りはずす場合は、データを消失するおそれがあるため、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。

ヘッドホンの操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
  - ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
  - ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

10 バッテリーについて

バッテリーを充電するにあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。
  バッテリーは5〜35℃の室温で充電してください。

社団法人　電子情報技術産業協会の「バッテリ関連Q&A集」について
http://it.jeita.or.jp/perinfo/committee/pc/battery/menu1.htm

11 顔照合機能について

- 「TOSHIBA Face Recognition」は本人の認証・照合を保証するものではありません。
  登録者の髪型・帽子の有無・眼鏡の有無など登録時と顔に変化があると認識率が低下する可能性があります。
- 登録者に似ている顔を誤照合する場合があります。
- セキュリティを目的としたWindowsパスワードの置き換えには適しません。
  セキュリティが重要な場合には、適切なWindowsパスワードをログインにお使いください。
- 周囲の明るさや光の方向の違いがあると、登録者であっても正しく照合できない場合があります。その場合はWindowsパスワードを使ってログインしてください。
  登録者本人の照合に連続して失敗する場合には、追加学習を行うと照合しやすくなります。
- 顔照合に失敗した顔データをログ情報として記録していますので、パソコンを廃棄するときにはアプリケーションをアンインストールするか、「TOSHIBA Face Recognition」を起動しログを全件削除してください。
- 「TOSHIBA Face Recognition」の使用または使用不能から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断など）に関して当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。
- 当社は、以下に関していっさいの責任を負いかねますので、ご了承ください。
  - ・取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた不便または損害
  - ・当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる不具合、またはその結果生じた不便または損害
  - ・顔情報や照合履歴など記憶内容の消失、あるいは漏えいなどにより生じるいかなる損害、クレームなど（「TOSHIBA Face Recognition」に登録された顔情報など記憶内容は、お客様の責任において管理願います。）
  - ・何らかの原因による登録・照合に関する不動作。
    および、不動作に起因する損害。

2 記録メディアについて

記録メディアを使う前に、次の内容をよく読んでください。

1 microSDメモリカードを使う前に

1 microSDメモリカードの操作にあたって

- データの書き込み中は、電源を切ったり、microSDメモリカードを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやmicroSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- microSDメモリカードは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、microSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- スリープ中は、microSDメモリカードを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- microSDメモリカードのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- microSDメモリカードを取り出す場合は、必ずシステム上で使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、microSDメモリカードが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、必ずmicroSDカードスロットからmicroSDメモリカードを取り出してください。microSDカードスロットやmicroSDメモリカードが破損するおそれがあります。

2 microSDメモリカードを使う前に

- すべてのmicroSDメモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのmicroSDメモリカードの動作保証はできません。
- microSDメモリカードは、SDMIの取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。
  そのため、ほかのパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMIとはSecure Digital Music Initiativeの略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- microSDメモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐSDMIに準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。

microSDメモリカードのフォーマットについて

- 再フォーマットする場合は、microSDメモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤーなど）で行ってください。
Windows上（[コンピューター] 画面）でmicroSDメモリカードのフォーマットを行わないでください。デジタルカメラやオーディオプレーヤーなどほかの機器で使用できなくなる場合があります。
- 再フォーマットを行うと、そのmicroSDメモリカードに保存されていた情報はすべて消去されます。1度使用したmicroSDメモリカードを再フォーマットする場合は注意してください。

2 記録メディアの廃棄・譲渡について

記録メディア（USBフラッシュメモリ、microSDメモリカードなど）を廃棄・譲渡する際には、書き込まれたデータが流出しないよう、適切な方法で消去することをおすすめします。
初期化、削除、消去などの操作などを行っても、データの復元ツールで再生できる場合もありますので、十分ご確認ください。
データ消去のための専用ソフトや、メディア専用のシュレッダーも販売されています。

3 お客様登録の手続き

パソコンやアプリケーションを使用するときは、自分が製品の正規の使用者（ユーザー）であることを製品の製造元へ連絡します。これを「お客様登録」または「ユーザー登録」といいます。お客様登録は、パソコン本体、使用するアプリケーションごとに行い、方法はそれぞれ異なります。
お客様登録を行わなくても、パソコンやアプリケーションを使用できますが、お問い合わせをいただくときにお客様番号（「ユーザーID」など、名称は製品によって異なります）が必要な場合や、お客様登録をしているかたへは製品に関する大切な情報をお届けする場合がありますので、使い始めるときに済ませておくことをおすすめします。

1 東芝ID（TID）お客様登録のおすすめ

東芝では、お客様へのサービス・サポートのご提供の充実をはかるために東芝ID（TID）のご登録をおすすめしております。
サービス内容は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

詳しくは、次のアドレス「東芝ID（TID）とは？」をご覧ください。
https://room1048.jp/onetoone/info/about_tid.htm

付録

登録方法

お客様の環境に応じて、登録方法を選択できます。

■方法１ - ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネットに接続後、登録用のホームページに簡単にアクセスできます。

■方法２ - インターネットからのご登録方法

インターネットに接続後、URLを入力して登録用のホームページにアクセスしていただきます。
登録用ホームページ：http://room1048.jp

商品の追加登録は「方法１」または「方法２」で行います。
ここでは、「方法１」を紹介します。

1 ［東芝お客様登録］アイコンからのご登録方法

インターネット接続の設定やインターネットプロバイダーとの契約をしてある場合に、［東芝お客様登録］アイコンからTID登録を行う方法を説明します。インターネットに接続しているあいだの通信料金やプロバイダー使用料などの費用はお客様負担となりますので、あらかじめご了承ください。

メモ

- インストールしているウイルスチェックソフトの設定によって、インターネット接続を確認する画面が表示される場合があります。インターネット接続を許可する項目を選択し、操作を進めてください。
- 初めて「Internet Explorer」を起動したときは、「iGoogle」の設定画面が表示される場合があります。画面に従って操作してください。

1 デスクトップ上の［東芝お客様登録］アイコン（ ）をダブルタップする

［「お客様登録」のお願い］画面が表示されます。
以降は、画面の指示に従って操作してください。

4 技術基準適合について

■瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人　電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピューターの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

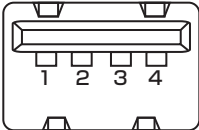
■高調波対策について

JIS C 61000-3-2 適合品

本装置は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

■電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

5 各インターフェースの仕様

1 USBインターフェース

ピン番号	信号名	意　味	信号方向
1	VBUS	＋5V	
2	D-	マイナスデータ	I/O
3	D+	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グランド	
コネクタ図			

信号名　　　　：ーがついているのは、負論理値の信号です
信号方向（I）：パソコン本体への入力
信号方向（O）：パソコン本体からの出力

付録

6 無線LANについて

＊無線LANモデルのみ

1 無線LANの概要

本製品には、IEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11nのすべて、もしくはその一部に準拠した無線LANモジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 周波数チャネル選択
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント

本書では、内蔵された無線LANモジュールの種類によって説明が異なる項目があります。
使用しているパソコンに内蔵された無線LANモジュールの種類の確認については、「3章 1 - 2 - 1 無線LANモジュールの確認」をご覧ください。

付録

2 無線特性

無線LANの無線特性は、製品を購入した国／地域、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は使用する国／地域の無線規制の対象になります。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない5GHz帯および2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。

無線周波数帯	IEEE802.11a, IEEE802.11n	5GHz（5150-5350MHz、および 5470-5725MHz）
	IEEE802.11b, IEEE802.11g, IEEE802.11n	2.4GHz（2400-2483MHz）
変調方式	IEEE802.11a, IEEE802.11g	直交周波数分割多重方式 OFDM-BPSK, OFDM-QPSK, OFDM-16QAM, OFDM-64QAM
	IEEE802.11b	直接拡散方式 DSSS-CCK, DSSS-DQPSK, DSSS-DBPSK
	IEEE802.11n	直交周波数分割多重方式（OFDM方式）， 空間多重方式（MIMO方式）

無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 サポートする周波数帯域

無線LANがサポートする5GHz帯および2.4GHz 帯のチャネルは、国／地域で適用される無線規制によって異なる場合があります（表「無線IEEE802.11 チャネルセット」参照）。

■無線IEEE802.11 チャネルセット

- 5GHz帯：5150-5350MHz および、5470-5725MHz
（IEEE802.11a、IEEE802.11nの場合）

メモ

- 5GHz帯無線LANは電波法令により屋外で使用することはできません。

	チャネルID	周波数
W52	36	5180
	40	5200
	44	5220
	48	5240
W53	52	5260
	56	5280
	60	5300
	64	5320
W56	100	5500
	104	5520
	108	5540
	112	5560
	116	5580
	120	5600
	124	5620
	128	5640
	132	5660
	136	5680
	140	5700

アクセスポイント側のチャネル（W52/W53/W56）に合わせて、そのチャネルに自動的に設定されます。

● 2.4GHz帯：2400-2483MHz（IEEE802.11b/g、IEEE802.11nの場合）

チャネルID	周波数
1	2412
2	2417
3	2422
4	2427
5	2432
6	2437
7	2442
8	2447
9	2452
10	2457*1
11	2462
12	2467
13	2472

＊1 購入時に、アドホックモード接続時に使用するチャネルとして設定されているチャネルです。

4 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。
5GHz帯無線LANは電波法令により屋外で使用することはできません。

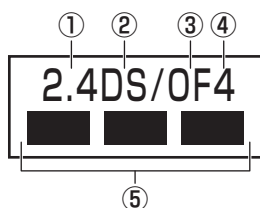
■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

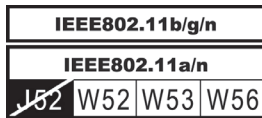
この機器の使用周波数帯は　2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

■現品表示

本製品には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② DS　：変調方式がDS-SS方式であることを示す。
③ OF　：変調方式がOFDM方式であることを示す。
④ 4　：想定される与干渉距離が40m以下であることを示す。
⑤ ■■■：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

付録

■JEITAロゴ表記について

5GHz帯無線LANは、W52/W53/W56チャネルをサポートしています。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『東芝PCサポートのご案内』を参照してください。

5 機器認証表示について

本製品には、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局として、認証を受けた無線設備を内蔵しています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

■Intel a/b/g/n-WiMAX モジュールの場合

無線設備名 ： 622ANXHMW
株式会社　ディーエスピーリサーチ
認証番号 ： D090856003

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピューター）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

6 お知らせ

無線製品の相互運用性

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、Direct Sequence Spread Spectrum（DSSS）／Orthogonal Frequency Division Multiplexing（OFDM）無線技術を使用するあらゆる無線LAN製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Institute of Electrical and Electronics Engineers（米国電気電子技術者協会）策定のIEEE802.11 Standard on Wireless LANs（Revision a/b/g/n）（無線LAN標準規格（版数 a/b/g/n））
- Wi-Fi Allianceの定義するWireless Fidelity（Wi-Fi）認証
  Wi-Fi CERTIFIEDロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。

健康への影響

本製品に内蔵されている無線LANモジュールは、ほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
本製品に内蔵されている無線LANモジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がWireless LANの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でWireless LAN装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Wireless LAN装置の電源を入れる前に、個々の組織または施設環境の管理者に対して、本製品の使用可否について確認してください。

規制に関する情報

本製品に内蔵されている無線LANモジュールのインストールと使用に際しては、必ず製品付属の取扱説明書に記載されている製造元の指示に従ってください。
本製品は、無線周波基準と安全基準に準拠しています。

7 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

■Intel a/b/g/n-WiMAX モジュール

日本

（2010年5月現在）

- 無線LANとWiMAXは同時に使用できません。
- 802.11aおよび802.11nモードではアドホック通信は使用できません。
- アドホック通信でのピアツーピア接続は、Ch1～Ch11で使用できます。
- インフラストラクチャ通信でのアクセスポイントへの接続は、Ch1～Ch13，Ch36，Ch40，Ch44，Ch48，Ch52，Ch56，Ch60，Ch64，Ch100，Ch104，Ch108，Ch112，Ch116，Ch120，Ch124，Ch128，Ch132，Ch136，Ch140で使用できます。

7 Bluetoothについて

＊Bluetoothモデルのみ

1 物理仕様

ワイヤレス通信	通信方式	Bluetooth Specification Ver.2.1+EDR
	無線周波数帯	2.4GHz（2402～2480MHz）
	変調方式	周波数ホッピング方式　２値FSK
	出力＊1	最大＋4dBm（Power Class2）
	受信感度＊1	－70dBm
	通信距離	見通し10m＊2
電源電圧		3.3V
消費電力		最大200mA

＊1 アンテナの効率は含まれません。
＊2 周囲の電波環境、障害物、設置環境などにより異なります。

付録

2 無線特性

Bluetoothモジュールの無線特性は、製品を購入した国、購入した製品の種類により異なる場合があります。
多くの場合、無線通信は国／地域によって使用が規制されています。無線ネットワーク機器は、無線免許の必要ない2.4GHz帯で動作するように設計されていますが、国／地域の無線規制により無線ネットワーク機器の使用に多くの制限が課される場合があります。
本製品のBluetooth通信機能が使用できる国／地域については、「本節 6 使用できる国／地域について」を確認してください。
無線機器の通信範囲と転送レートには相関関係があります。無線通信の転送レートが低いほど、通信範囲は広くなります。

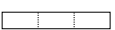
メモ

- アンテナの近くに金属面や高密度の固体があると、無線デバイスの通信範囲に影響を及ぼすことがあります。
- 無線信号の伝送路上に無線信号を吸収または反射し得る"障害物"がある場合も、通信範囲に影響を与えます。

3 本製品を日本でお使いの場合のご注意

日本では、本製品を第二世代小電力データ通信システムに位置付けており、その使用周波数帯は2,400MHz～2,483.5MHzです。この周波数帯は、移動体識別装置（移動体識別用構内無線局及び移動体識別用特定小電力無線局）の使用周波数帯2,427MHz～2,470.75MHzと重複しています。

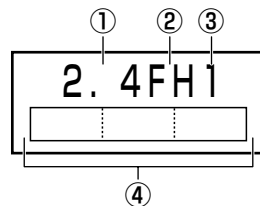
■ステッカー

本製品を日本国内にてご使用の際には、本製品に付属されている次のステッカーをパソコン本体に貼り付けてください。

この機器の使用周波数帯は 2.4GHz帯です。この周波数では電子レンジ等の産業・科学・医療機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用されている免許を要する移動体識別用の構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、又は機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. その他、電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、東芝PCあんしんサポートへお問い合わせください。

付録

■現品表示

本製品には、次に示す現品表示が記載されています。

① 2.4　：2,400MHz帯を使用する無線設備を表す。
② FH　：変調方式がFH-SS方式であることを示す。
③ 1　：想定される与干渉距離が10m以下であることを示す。
④ ［　］：2,400MHz～2,483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

■東芝PCあんしんサポート

東芝PCあんしんサポートの連絡先は、『東芝PCサポートのご案内』を参照してください。

4 機器認証表示について

本製品は、電気通信事業法に基づく小電力データ通信システムの無線局の端末設備として、技術基準適合認証を受けております。

無線設備名 ： BSMAN3
財団法人電気通信端末機器審査協会
認証番号 ： D09-0366001

本製品に組み込まれた無線設備は、本製品（ノートブックコンピューター）に実装して使用することを前提に、小電力データ通信システムの無線局として工事設計の認証を取得しています。したがって、組み込まれた無線設備をほかの機器へ流用した場合、電波法の規定に抵触するおそれがありますので、十分にご注意ください。

5 お知らせ

■無線製品の相互運用性

Bluetooth 東芝製モジュールは、Frequency Hopping Spread Spectrum（FHSS）無線技術を使用するあらゆるBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた製品と相互運用できるように設計されており、次の規格に準拠しています。

- Bluetooth Special Interest Group策定のBluetooth Specification Ver.2.1+EDR
- Bluetooth Special Interest Groupの定義するBluetooth ワイヤレステクノロジーのLogo認証

メモ

- 本製品はすべてのBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器との接続動作を確認したものではありません。ご使用にあたっては、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器対応の動作条件と接続の可否情報を取扱元にご確認ください。

また下記の取り扱い上の注意点があります。

(1) 本製品はBluetooth Version2.1+EDR仕様に準拠しております。
Bluetooth Version1.0B 仕様のBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた機器とは互換性がありません。
(2) 2.4GHz帯のWireless-LANが近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。
(3) BluetoothとWireless-LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、Wireless-LANのいずれかの使用を中止してください。

付録

■健康への影響

Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた製品はほかの無線製品と同様、無線周波の電磁エネルギーを放出します。しかしその放出エネルギーは、携帯電話などの無線機器と比べるとはるかに低いレベルに抑えられています。
Bluetooth 東芝製モジュールの動作は無線周波に関する安全基準と勧告に記載のガイドラインにそっており、安全にお使いいただけるものと東芝では確信しております。この安全基準および勧告には、学会の共通見解と、多岐にわたる研究報告書を継続的に審査、検討している専門家の委員会による審議結果がまとめられています。
ただし周囲の状況や環境によっては、建物の所有者または組織の責任者がBluetooth ワイヤレステクノロジーの使用を制限する場合があります。次にその例を示します。

- 飛行機の中でBluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた装置を使用する場合
- ほかの装置類またはサービスへの電波干渉が認められるか、有害であると判断される場合

個々の組織または環境（空港など）において無線機器の使用に関する方針がよくわからない場合は、Bluetooth ワイヤレステクノロジーを用いた装置の電源を入れる前に、管理者に使用の可否について確認してください。

付録

6 使用できる国／地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国／地域の無線規格を取得しております。これらの国／地域以外では使用できません。

アイスランド	オマーン	スイス	日本	ボリビア
アイルランド	オランダ	スウェーデン	ニュージーランド	ポルトガル
アゼルバイジャン	ガーナ	スペイン	ノルウェー	香港
アメリカ合衆国	カザフスタン	スリランカ	バーレーン	ホンジュラス
アラブ首長国連邦	カタール	スロバキア	パキスタン	マセドニア
アルゼンチン	カナダ	スロベニア	パナマ	マルタ
アルバニア	韓国	セネガル	パプアニューギニア	マレーシア
イエメン	カンボジア	セルビア	パラグアイ	南アフリカ
イギリス	キプロス	タイ	ハンガリー	メキシコ
イタリア	ギリシャ	台湾	フィリピン	モザンビーク
インド	キルギスタン	チェコ	フィンランド	モナコ
インドネシア	グアテマラ	中国	プエルトリコ	ヨルダン
ウクライナ	クウェート	チリ	フランス	ラトビア
ウルグアイ	クロアチア	デンマーク	ブルガリア	リトアニア
エクアドル	ケニア	ドイツ	ベトナム	リヒテンシュタイン
エジプト	コスタリカ	ドミニカ	ベネズエラ	ルーマニア
エストニア	コロンビア	トルコ	ペルー	ルクセンブルク
エルサルバドル	サウジアラビア	ナイジェリア	ベルギー	レソト
オーストラリア	シンガポール	ナミビア	ポーランド	レバノン
オーストリア	ジンバブエ	ニカラグア	ボスニア・ヘルツェゴビナ	ロシア

（2010年5月現在）

付録